

地域福祉に関するアンケート

--市民--

【結果報告書】

目次

結果のポイント.....	1
1 調査概要.....	5
2 回答者の属性.....	5
3 地域での助けあい.....	9
4 地域での活動.....	17
5 大規模災害時の備え.....	21
6 権利擁護.....	23
7 地域での暮らしに関する環境.....	26
8 定住意向.....	29
9 大和市の福祉に関する意見等（自由記述）.....	29
調査票.....	30

平成 30 年 3 月

結果のポイント

【地域での助け合い】

<日頃の悩み及び相談先>

回答者の半数は何らかの困りごと・悩みを抱えており、その内容は、「自分や家族の健康」「生活費等の経済的な悩み」などであった。

◇日頃の生活で困っていること・悩んでいること

「自分や家族の健康」28.4% 「生活費等の経済的な悩み」21.3%

「生活費等の経済的な悩み」「子どもの見守りや一時預かり」は、「相談しない」の割合が高くなっており、一人で抱え込んでしまう傾向がみられる。

◇日頃の生活で困ったときや悩んだときの相談先

「生活費等の経済的な悩み」→「家族・親戚」51.7% 「相談しない」15.5%

「子どもの見守りや一時預かり」→「家族・親戚」30.6% 「相談しない」15.2%

「地震・災害時の避難や安否確認」では約2割の人が、「近所の人」「自治会・民生委員」など地域の人へ相談していると回答している。

<地域での助けあいの推進>

「福祉は行政の仕事なので、行政が行う方がよい」や「自己責任なので、特に助けあう必要はない」という意見は1割程度であり、多くの人が、地域で助け合いの必要性を感じている結果となった。

◇地域での助け合いを進めていくことについて

「地域の団体などが中心になって取り組む方がよい」37.9%

「市民一人ひとりが、協力できることをする方がよい」36.0%

<「顔の見える関係」の推進>

「近所でのあいさつ・声かけ」(81.6%)「近所でのふだんからの付き合い」(55.7%)が上位2項目であり、「顔の見える関係」を築くためには、ふだんからの関係づくりが必要であることがわかる。

<日常生活での地域の人との関係>

「災害時の手助け」は「できれば助けてもらいたい」「近い将来、助けてもらおうかもしれない」を合わせると半数近くになり、地域で必要とされていることがうかがえる。

<地域の助け合いの必要性>

全ての項目で「地域の人が困っていた場合、手助けできない」とした人が半数以上を占め、その理由は「交流がない」が多かったことから、普段から近所づきあいが希薄なため、困りごとが発生したときに助け合う関係性が築かれていないことがうかがえる。

<社会的孤立や引きこもりについて>

「挨拶や声をかけるようにする」といった地域での見守りと、「相談できる機関があることを知らせる」といった適切な情報の提供の必要性を感じている人が多かった。

◇「挨拶や声をかけるようにする」56.8% 「変わった様子がないか日頃から気に掛ける」32.7%

◇「相談機関を知らせる」47% 「誰もが立ち寄れる居場所をつくる」40.9%

【地域での活動】

＜地域の活動への参加＞

「趣味や習い事」、「公園、遊歩道などの清掃活動」といった自身の生活の向上につながる活動への参加意向は高く、「外出、レクリエーションなどの付き添い」といった対象が限定される活動は、参加意向が低い傾向にある。

- ◇「趣味や習い事」現在参加している・今後参加してみたい 48.8%
- ◇「レクリエーションなどの付き添い」現在参加している・今後参加してみたい 25.3%

＜地域の活動に参加しない理由＞

現在参加していない人の中に、2割程度、潜在的参加意向をもつ人がいることがうかがえた。

- ◇「参加の仕方がわからない」18.7%
- ◇「きっかけがない」17.5%
- ◇「必要な情報がない」11.2%

＜地域の活動への参加のきっかけと情報及び情報の入手方法＞

地域の活動に参加するために必要な情報は、「活動内容・時間・場所」のほかに、「目的・雰囲気」と回答する人も多かった。また、これらの情報は主に「県・市の広報」「回覧板」から入手しているという結果であったが、回覧板の割合は「一戸建て」や「持ち家」では高いものの、「共同住宅」や「借家」では低い結果となっており、若い世代では「インターネット」の割合が高くなっていることから、新たな情報ツールの活用が必要がうかがえる結果となった。

【大規模災害時の備え】

＜災害を最小限に抑えるためにしていること＞＜災害時に不安に感じること＞

自助に関して、「避難所や避難場所を把握している」は半数以上（54.0%）が実践しているものの、他の項目について実践できている人は4割に満たなかった。また、災害時、「避難所での生活」や「的確な情報の入手」に不安を感じている人が多い結果となった。

- ◇「災害発生時、家族の集合場所を決めている」39.2% 「非常持ち出しを備えている」37.7%
- ◇「避難所での生活が不安」54.8% 「家にとどまるか避難所に向かうか判断に迷う」54.7%
- 「家族の安否確認」53.5% 「的確な情報を入手できるか不安」50.9%

＜災害時に地域のためにできること＞

「安否確認」「救援物資の区分け」「救助の手伝い」等では4割程度の「できる」という回答が得られたが、「付き添い・介護」「応急手当」「ペットの世話」など専門の知識や技術を要する項目では、「できる」という回答が1割程度であった。

【権利擁護】

<高齢者、障がい者、子どもへの虐待の発見・対応>

虐待に気づいた時の連絡先として、「市役所」「警察」と回答した人が半数程度であり、「児童相談所・障害者虐待防止センター」など専門機関を挙げた人は3割程度であった。また、「民生委員・児童委員」とした人は2割弱であった。対応をとるときに、虐待と指導・しつけの境界に対する不安や通報者の責任に対して懸念している人が多い結果となった。

◇虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に不安に感じること

「指導やしつけの範囲の可能性がある」36.5% 「自分が通報したことがわかり責められる」29.1%

<成年後見制度の認知度>

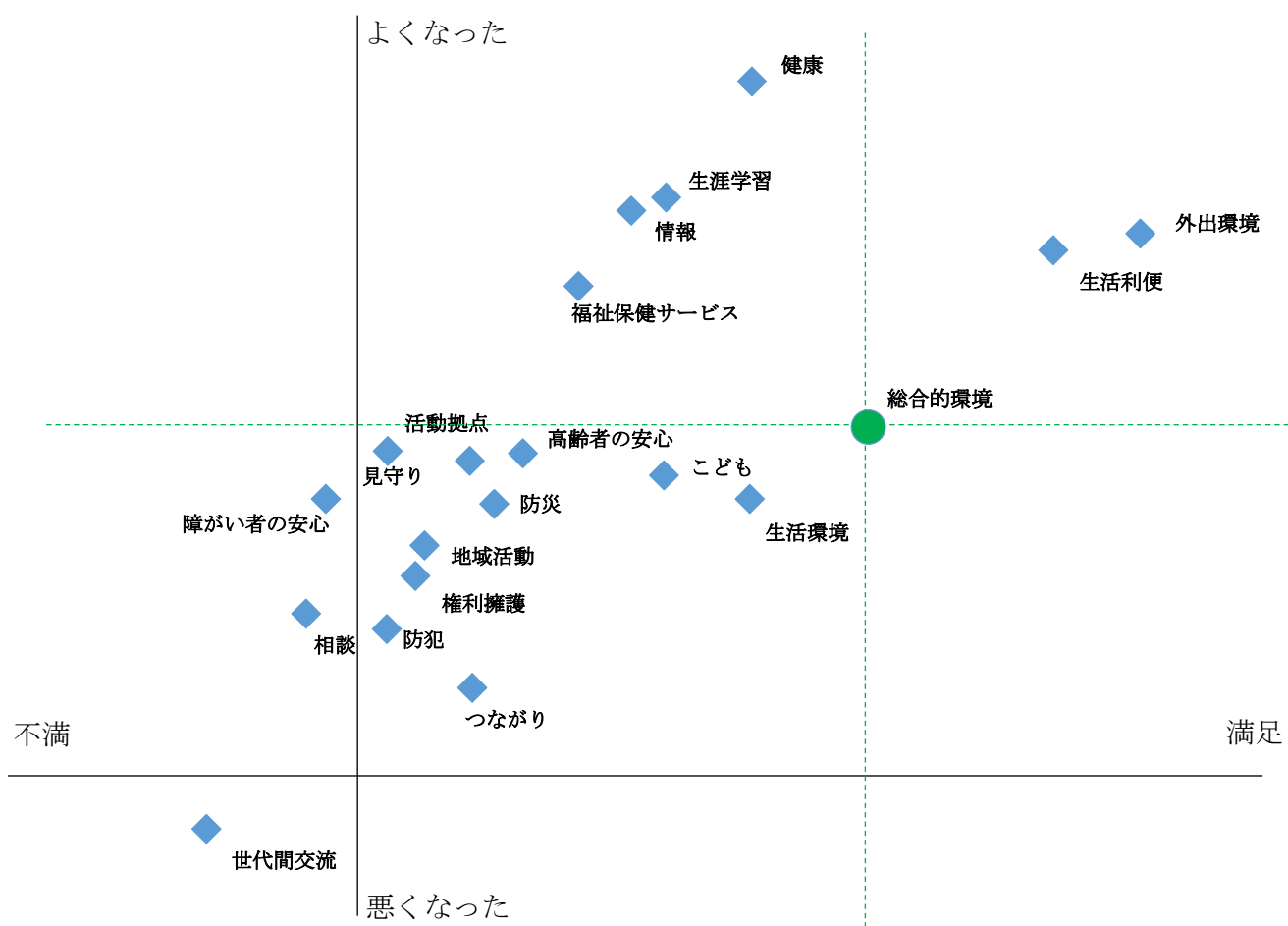
「内容をよく知っている」人は2割に満たないことから、より一層の普及促進の必要性がうかがえる。

<認知症の人への地域住民の協力の必要性>

認知症の人が生活するためには、「地域住民の協力が必要」とする回答が8割を占め、地域の協力体制の構築が求められていることがうかがえる結果となった。

【地域での暮らしに関する環境】

満足度と以前と比べた変化の選択肢に得点を付与し、無回答を除く結果を加重平均した数値で生活環境項目を比較すると、以下のグラフのとおりとなる。



●「総合的環境」は、満足度も比較的高く、以前よりもよくなったと評価されている。

満足度も高く、以前と比べてよくなった

「外出環境」「生活利便」といった利便性に関する項目が高く評価されており、大和市内を走るコミュニティバスのルート拡大等が評価されていることがうかがえる。

「健康」「生涯学習」「福祉保健サービス」といった健康や学習に関する項目も評価されており、健康づくりの取組や図書館等学習施設の充実なども評価されていることがうかがえる。

以前よりよくなっているが、満足度が比較的低い

「権利擁護」や、「見守り」「活動拠点」「つながり」など地域に関わる項目、「防災」「防犯」といった安全安心に関わる項目が位置しており、これまでの取り組みが評価されつつも、さらに充実していくことが期待されている。

不満でかつ以前より悪くなった

「世代間交流」が該当しており、普段の近所づきあいが希薄なこと、地域の活動に対する若い世代の関わりが少ないこと、交流を図る場の必要性など検討すべき課題を示唆している。

以前よりよくなっているが、満足には至っていない

「障がい者」「相談」といった行政施策に関わる項目が位置しており、これまでの取り組みが評価されつつも、十分とは言えず、さらなる充実が求められている。

【定住意向】

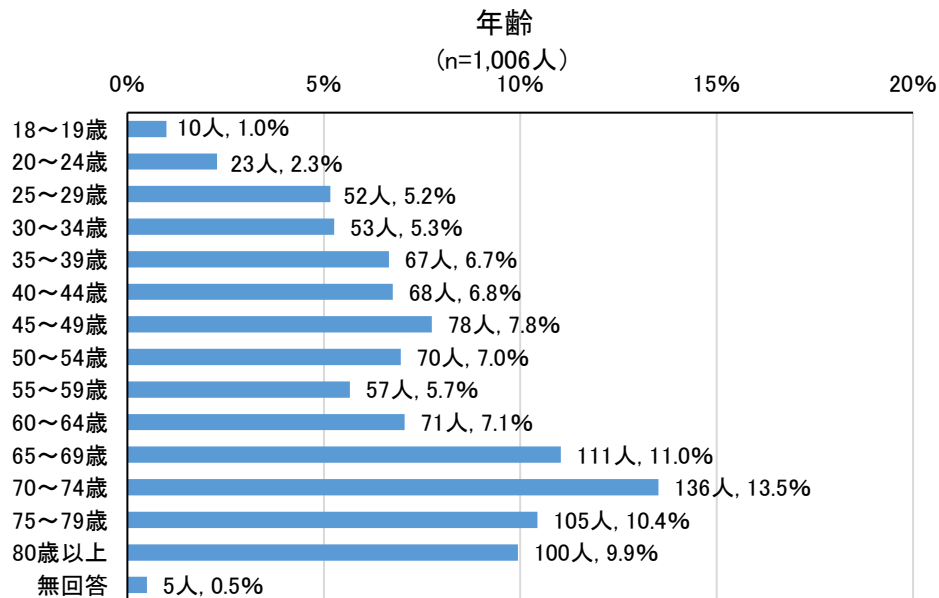
大和市への定住意向は約7割であった。

1 調査概要

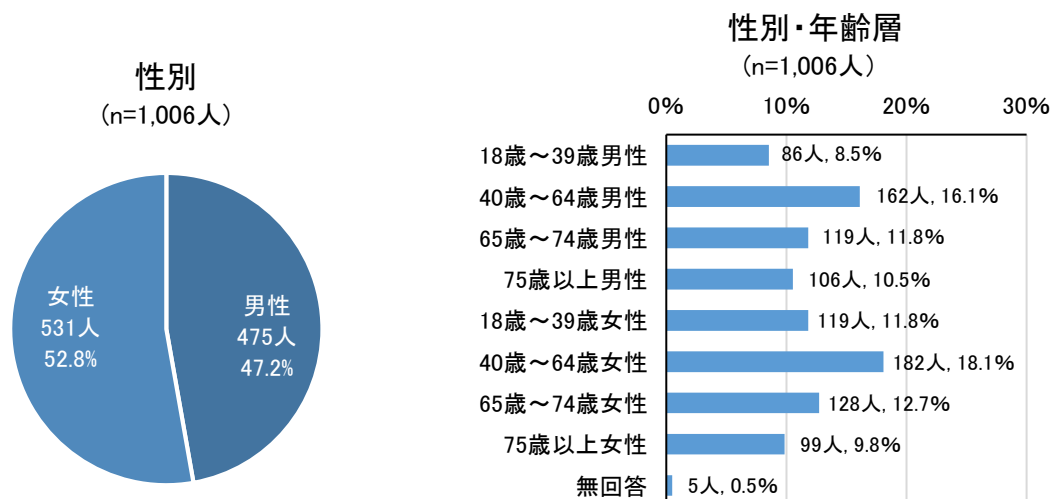
調査方法 郵送で発送、郵送で回収
 配布総数 3,000人(18歳以上)
 --住民基本台帳から無作為抽出--
 回収数 1,035人(有効回収数 1,006人)
 回収率 34.5%
 実施時期 平成30年1月

2 回答者の属性

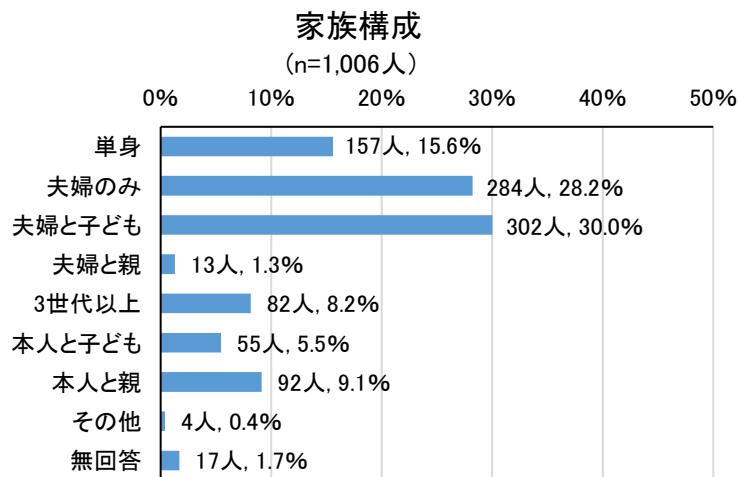
(1) 年齢



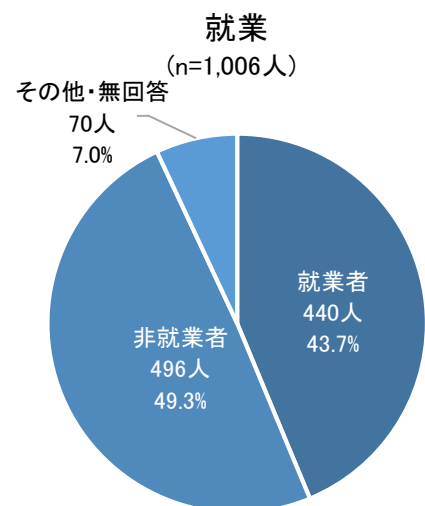
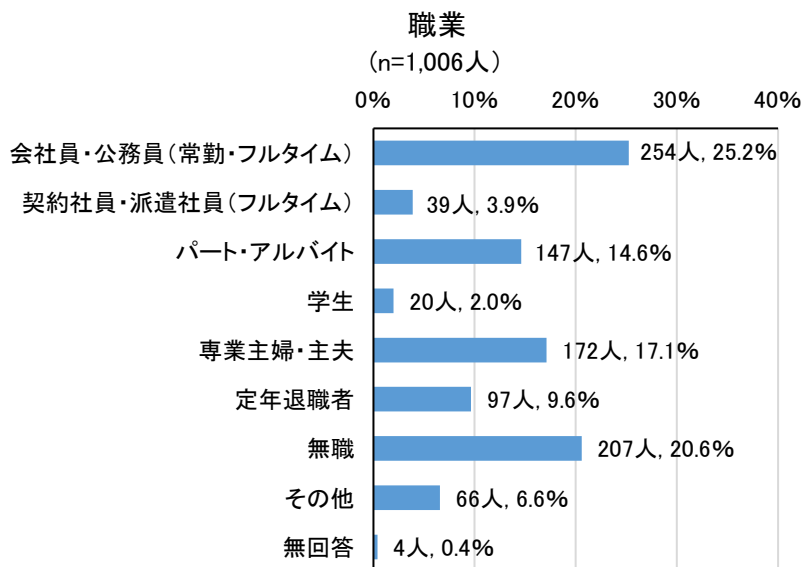
(2) 性別



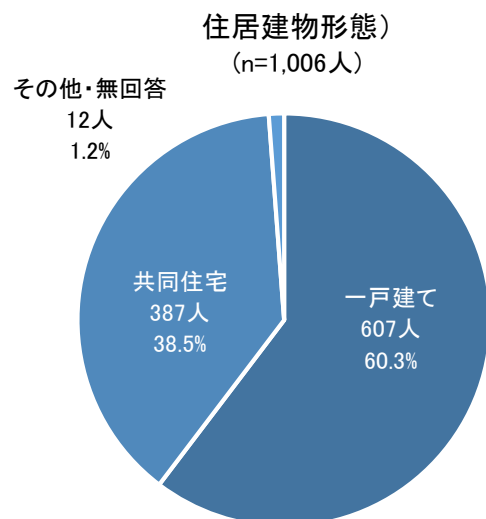
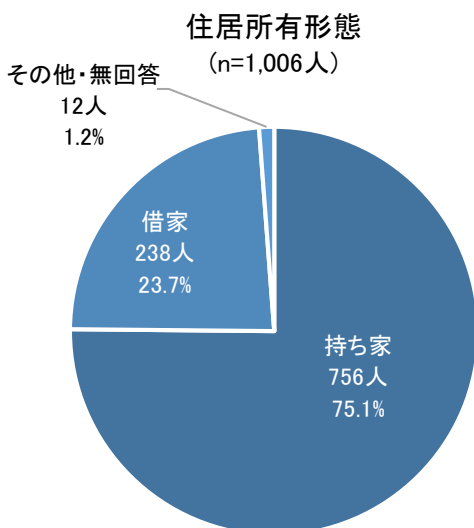
(3) 家族構成



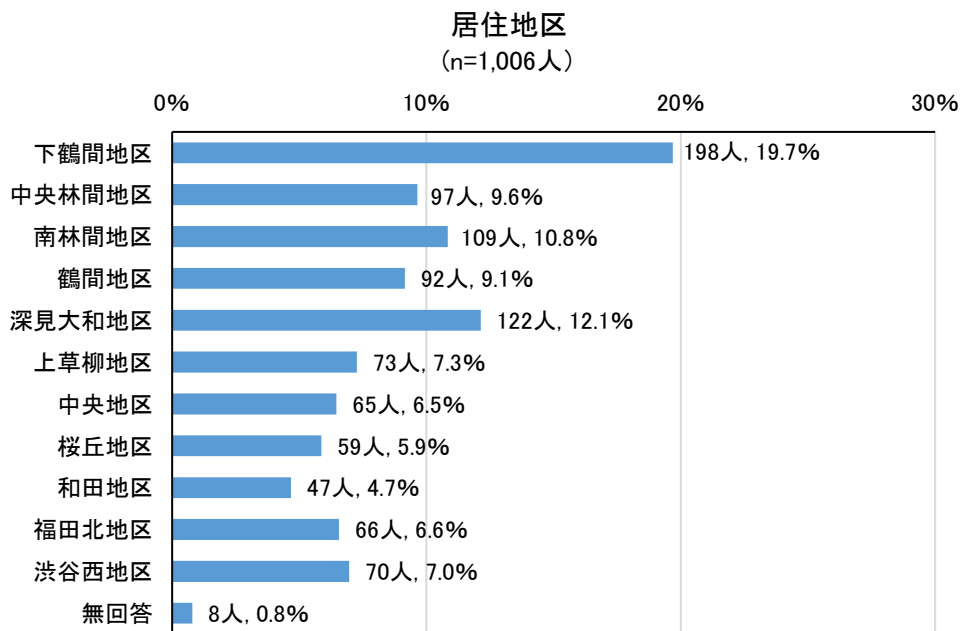
(4) 職業



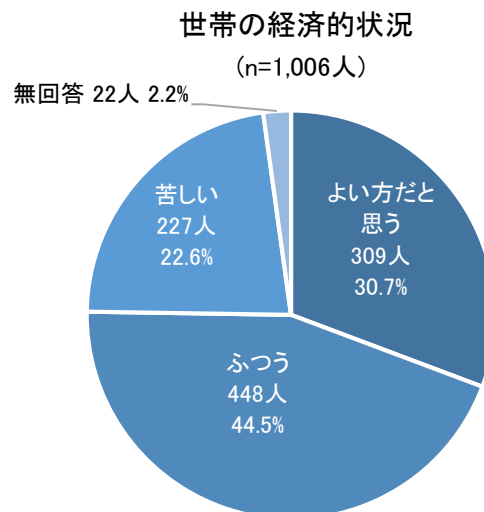
(5) 住居形態



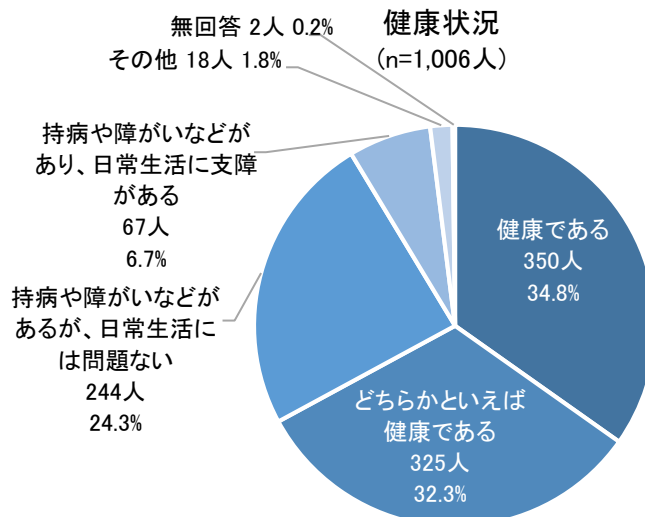
(6) 居住地



(7) 世帯の経済的な状況



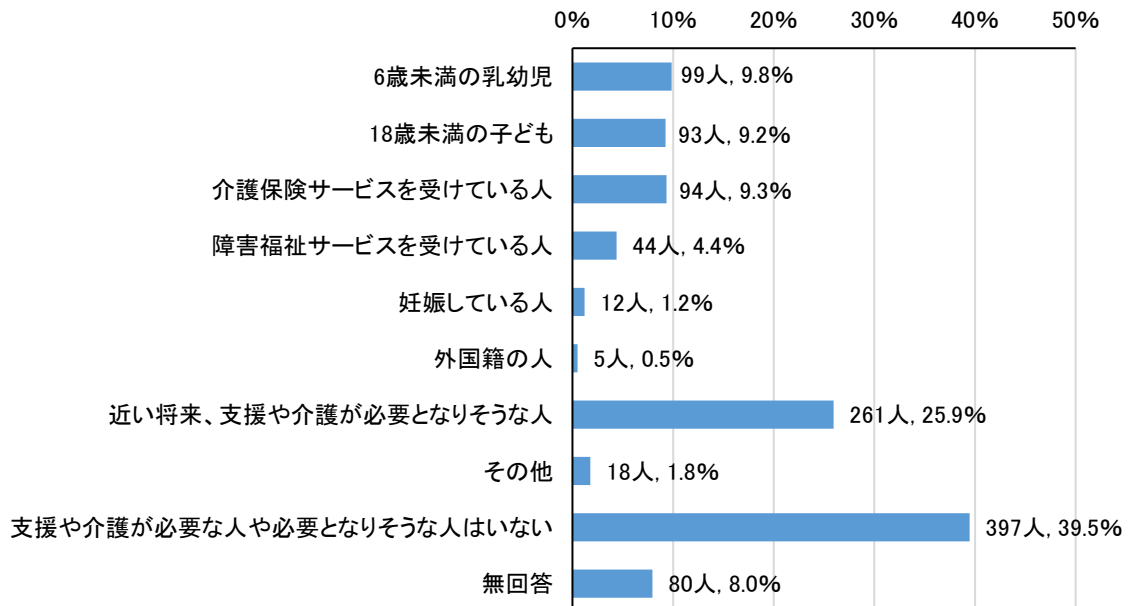
(8) 現在の健康状態



(9) 家族内の要支援や要介護者の存在

支援や介護が必要な人の有無(同一世帯中)

(複数回答 n=1,006人)



支援や介護が必要な人の状況(同一世帯中)

		介護保険サービスを受けている人	障害福祉サービスを受けている人	妊娠している人	外国籍の人	近い将来支援や介護が必要となりそうな人
総数		94	44	12	5	261
6歳未満 18歳未満両方いる	18	0	1	0	0	2
6歳未満の乳幼児	81	3	3	6	1	6
18歳未満の子ども	75	4	5	0	1	9
介護保険サービスを受けている人	94	-	8	0	1	13
障害福祉サービスを受けている人	44	-	-	0	1	8
妊娠している人	12	-	-	-	0	1
外国籍の人	5	-	-	-	-	1
近い将来支援や介護が必要となりそうな人	261	-	-	-	-	-

太字

支援や介護が必要な人が複数いる

3 地域での助けあい

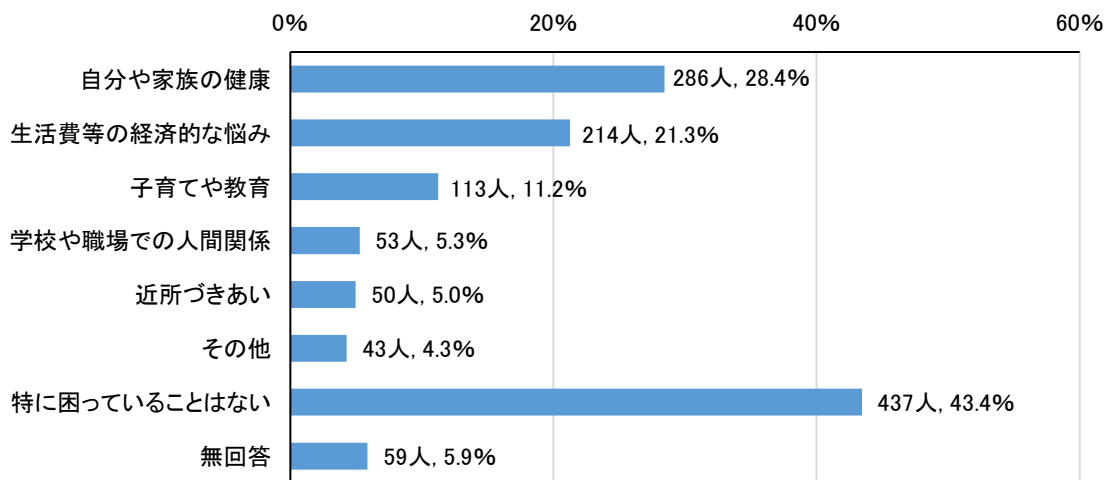
(1) 日頃の生活で困っていることや悩んでいること

「特に困っていることはない」が43.4%ともっとも多い。

回答者の半数(50.7%)は、日頃の生活において困りごと、悩みごと抱えており、困りごと・悩みごとの上位3位は、「自分や家族の健康」(28.4%)、「生活費等の経済的な悩み」(21.3%)、「子育てや教育」(11.2%)であった。

性・年齢層別にみると、18歳～39歳の女性で「生活費等の経済的な悩み」が、75歳以上の女性で「自分や家族の健康」と回答する人の割合が高い。

日頃の生活で困っていることや悩んでいること
(複数回答=1,006人)



性・年齢層別日頃の生活で困っていることや悩んでいること(複数回答)

	合計	10日頃の生活で困っていることや悩んでいること								
		自分や家族の健康	学校や職場での人間関係	近所づきあい	子育てや教育	生活費等の経済的な悩み	その他	特に困っていることはない	無回答	
全体	1006	28.4	5.3	5.0	11.2	21.3	4.3	43.4	5.9	
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	23.3	14.0	5.8	16.3	29.1	2.3	37.2	8.1
	40歳～64歳男性	162	27.2	7.4	4.3	17.9	24.1	3.1	43.2	4.3
	65歳～74歳男性	119	22.7	0.0	2.5	1.7	16.8	3.4	61.3	4.2
	75歳以上男性	106	40.6	0.0	3.8	0.0	12.3	2.8	44.3	7.5
	18歳～39歳女性	119	26.9	12.6	11.8	30.3	33.6	3.4	29.4	2.5
	40歳～64歳女性	182	26.4	6.6	5.5	15.9	27.5	3.8	39.0	4.4
	65歳～74歳女性	128	25.8	1.6	1.6	1.6	11.7	5.5	54.7	7.0
	75歳以上女性	99	38.4	0.0	4.0	0.0	11.1	10.1	38.4	10.1

注) 網掛は表側ごとの第1位を示している(以下同様)

(2) 日頃の生活で困ったときや悩んだときの相談先

相談先としてもっとも多かったのは、「家族・親戚」である。

「家族・親戚」を除くと、「自分や家族の健康」では「病院等専門機関・民間事業者」、「学校や職場での人間関係」「近所づきあい」「子育てや教育」「心の悩み」では「友人・知人」、「買い物やごみだし等家事全般」では「近所の人」、「地震・災害時の避難や安否確認」「振込詐欺などの犯罪防止」など防災防犯に関する問題では「市役所・行政機関・警察」が2番目に相談する相談先となっている。「生活費等の経済的な悩み」「外出の付き添いや送迎」「子どもの見守りや一時預かり」では、「相談しない」が2番目となっている。

「家族・親戚」を除く2番目の相談先

自分や家族の健康	病院等専門機関・民間事業者
学校や職場での人間関係	友人・知人
近所づきあい	友人・知人
子育てや教育	友人・知人
心の悩み	友人・知人
生活費等の経済的な悩み	相談しない
買い物やごみだし等家事全般	近所の人
外出の付き添いや送迎	相談しない
子どもの見守りや一時預かり	相談しない

「近所の人」「自治会・民生委員」など地域の人への相談は、「地震・災害時の避難や安否確認」「買い物やごみ出し等家事全般」では約2割の人が、「近所づきあい」では約1割の人が相談している。

日頃の生活で困ったときや悩んだときの相談先（複数回答）

	全体 (n)	家族・ 親戚 (%)	友人・ 知人 (%)	近所 の人 (%)	自治会・ 民生委員 (%)	社会福祉 協議会等 公益的 団体 (%)	市役所・ 行政機関・ 警察 (%)	病院等 専門機関・ 民間 事業者 (%)	学校・ 勤務先 (%)	相談先が ない・ わから ない (%)	相談 しない (%)	無回答 (%)
自分や家族の健康	1006	69.0	23.4	3.7	1.9	4.7	7.1	39.8	4.3	2.5	2.8	5.2
学校や職場での人間関係	1006	33.7	35.5	1.8	0.4	0.6	1.3	1.0	17.1	3.0	11.2	30.7
近所づきあい	1006	42.0	29.1	18.7	8.1	0.7	5.1	0.9	1.4	5.9	12.7	16.5
子育てや教育	1006	39.7	25.9	4.0	1.2	1.7	5.9	2.1	9.8	2.6	11.6	38.0
心の悩み	1006	46.4	35.9	1.3	0.7	2.1	2.2	15.5	2.7	4.6	12.7	15.8
生活費等の経済的な悩み	1006	51.7	9.5	0.5	1.6	6.0	14.2	0.2	1.2	6.3	15.5	17.5
買い物やごみだし等家事全般	1006	50.4	13.6	13.8	7.4	5.0	10.0	1.2	0.5	3.1	12.7	15.8
外出の付き添いや送迎	1006	42.2	10.8	4.3	3.0	13.2	8.2	4.8	0.7	6.6	14.7	21.8
子どもの見守りや一時預かり	1006	30.6	13.4	6.7	3.6	4.6	9.5	2.6	3.9	5.6	15.2	38.7
地震・災害時の避難や安否確認	1006	50.6	21.0	20.3	18.7	3.1	36.4	2.1	7.1	5.2	3.8	11.4
振込詐欺などの犯罪防止	1006	39.8	13.3	5.8	3.1	1.1	49.3	0.3	1.4	3.9	6.9	14.9
その他	1006	2.2	0.7	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0	0.9	3.8	92.6

注) 網掛は表側ごとの上位3項目を示している

(3) 地域での助けあいを進めていくことについて

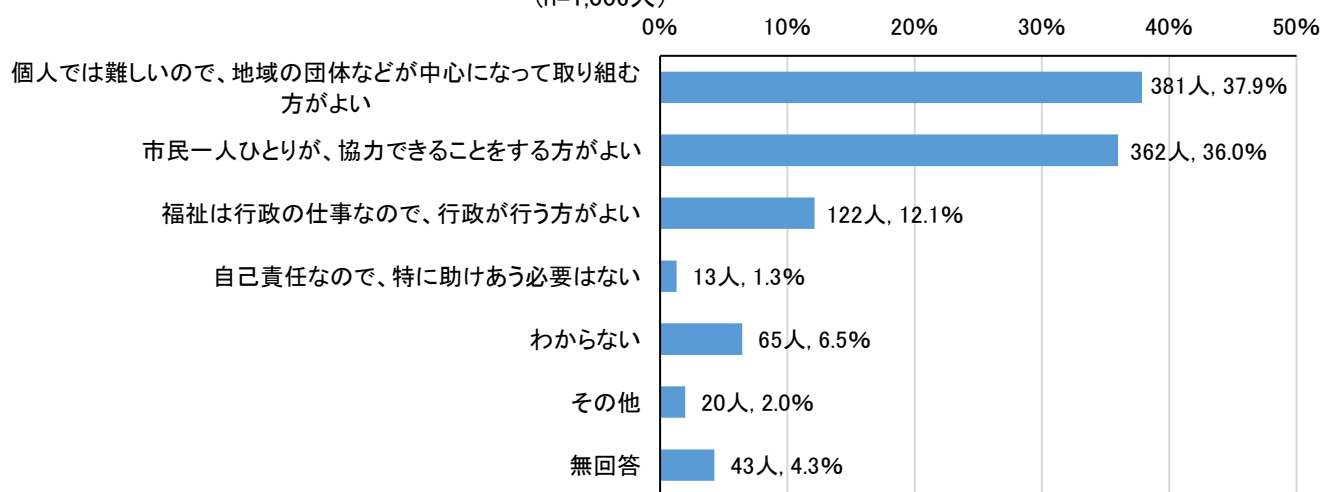
「個人では難しいので、地域の団体などが中心になって取り組む方がよい」(37.9%) がもっとも多く、次いで「市民一人ひとりが、協力できることをする方がよい」(36.0%) が多く、この2項目が4割弱で拮抗している。

「福祉は行政の仕事なので、行政がやる方がよい」(12.1%) は1割程度であった。「自己責任なので、特に助けあう必要はない」(1.3%) とする人は極めて少ない。

健康状況別みると、「健康である・どちらかといえば健康である」人では「市民一人ひとりが、協力できることをする方がよい」の割合がやや高く、「持病や障がいなどがある人」では、「福祉は行政の仕事なので、行政がやる方がよい」の割合が高い。

地域での助けあいを進めていくことについて

(n=1,006人)



性年齢別、健康状態別「地域での助け合いを進めていくことについて」

	合計	12 地域での助けあいを進めていくことについて							
		市民一人ひとりが、協力できることをする方がよい	個人では難しいので、地域の団体などが中心になって取り組む方がよい	福祉は行政の仕事なので、行政が行う方がよい	自己責任なので、特に助けあう必要はない	わからない	その他	無回答	
全体	1006	36.0	37.9	12.1	1.3	6.5	2.0	4.3	
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	33.7	38.4	14.0	2.3	7.0	2.3	2.3
	40歳～64歳男性	162	38.3	36.4	13.0	3.7	4.9	0.6	3.1
	65歳～74歳男性	119	41.2	31.9	12.6	1.7	6.7	0.0	5.9
	75歳以上男性	106	34.0	34.9	14.2	1.9	7.5	2.8	4.7
	18歳～39歳女性	119	37.8	36.1	10.1	0.8	9.2	3.4	2.5
	40歳～64歳女性	182	37.9	41.8	11.0	0.0	4.9	2.2	2.2
	65歳～74歳女性	128	28.9	46.9	9.4	0.0	6.3	3.1	5.5
	75歳以上女性	99	35.4	34.3	14.1	0.0	6.1	1.0	9.1
健康状況	健康である	350	42.0	40.0	8.6	1.4	4.6	0.9	2.6
	どちらかといえば健康である	325	38.8	38.2	10.2	1.2	5.5	1.8	4.3
	持病や障がいなどがあるが、日常生活には問題ない	244	28.3	37.3	17.2	1.6	7.4	2.9	5.3
	持病や障がいなどがあり、日常生活に支障がある	67	17.9	32.8	22.4	0.0	17.9	3.0	6.0

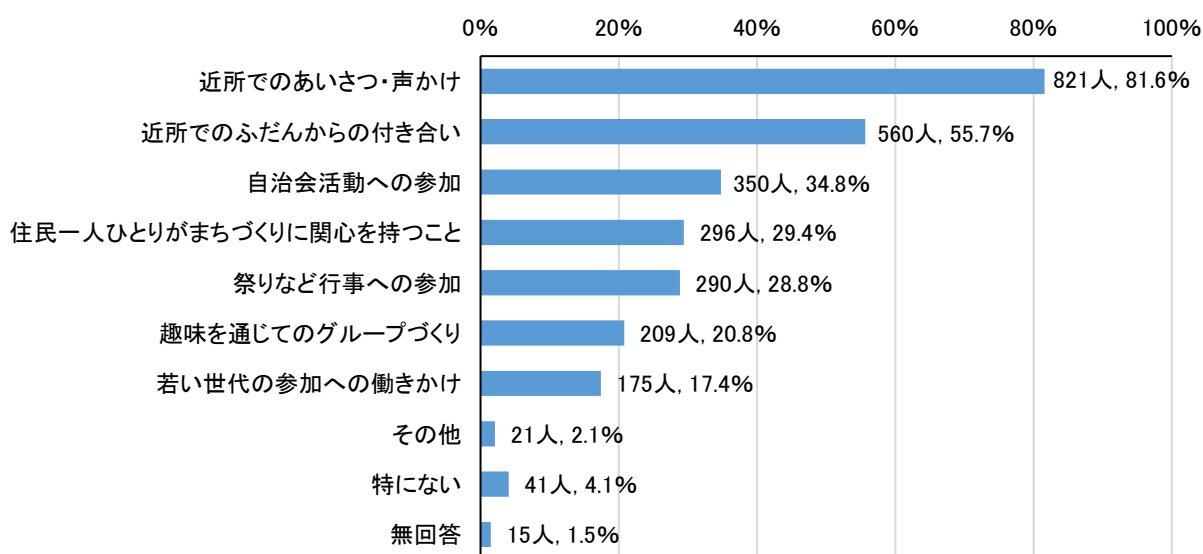
(4) 地域で「顔の見える関係」を築いていくために必要なこと

「近所でのあいさつ・声かけ」(81.6%)「近所でのふだんからの付き合い」(55.7%)が上位2項目であり、「顔の見える関係」を築くためには、ふだんからの関係づくりが必要とする考えを持つ人が半数以上であった。

性・年齢層別にみると、いずれの年齢層でも「近所でのあいさつ・声かけ」がもっとも多い。

18歳～39歳の男性では「祭りなど行事への参加」「若い世代への働きかけ」の割合がやや高く、65～74歳の女性では「自治会活動への参加」の割合がやや高い。75歳以上では男女ともに「近所でのふだんからの付き合い」の割合がやや高い。

「顔の見える関係」を築いていくために必要なこと
(複数回答 n=1,006人)



性・年齢層別地域別「顔の見える関係」を築いていくために必要なこと(複数回答)

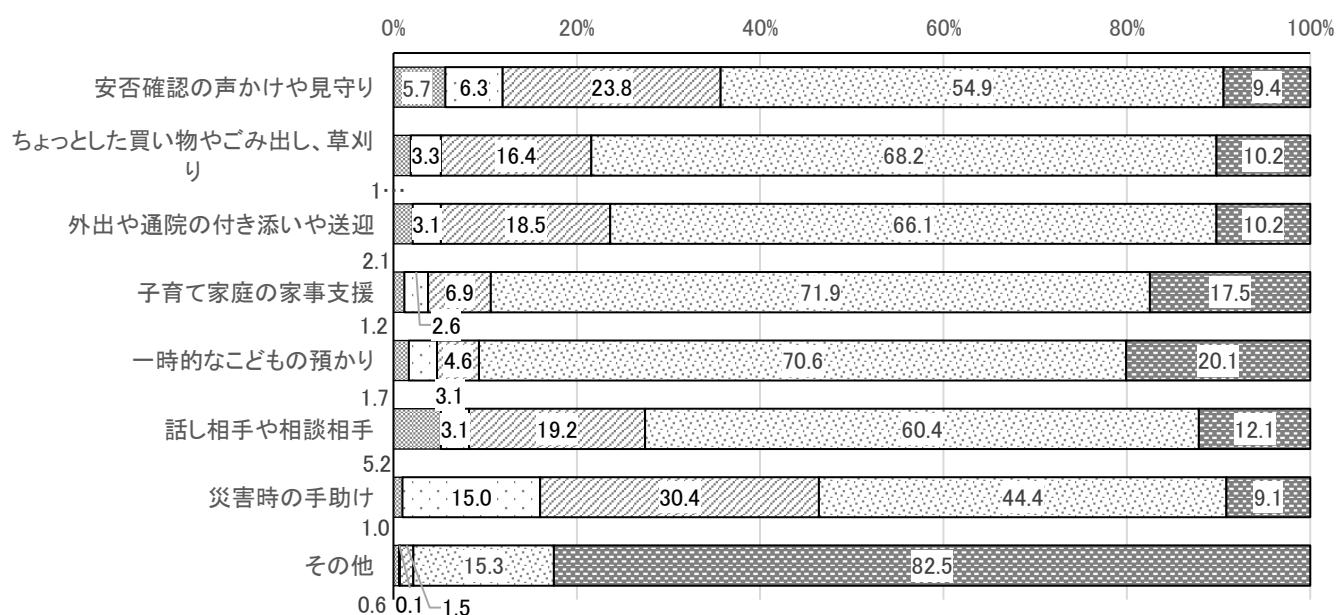
性別・年齢層	合計	地域で「顔の見える関係」を築いていくために必要なこと									
		近所でのあいさつ・声かけ	近所でのふだんからの付き合い	祭りなど行事への参加	自治会活動への参加	趣味を通じてのグループづくり	住民一人ひとりがまちづくりに関心を持つこと	若い世代の参加への働きかけ	その他	特になし	無回答
全体	1006	81.6	55.7	28.8	34.8	20.8	29.4	17.4	2.1	4.1	1.5
18歳～39歳男性	86	72.1	50.0	46.5	25.6	29.1	25.6	34.9	2.3	7.0	1.2
40歳～64歳男性	162	79.6	51.9	37.7	35.8	19.1	34.6	16.0	3.1	5.6	1.2
65歳～74歳男性	119	82.4	54.6	16.8	31.1	22.7	16.8	8.4	1.7	3.4	1.7
75歳以上男性	106	84.9	67.9	31.1	37.7	29.2	28.3	17.9	2.8	0.9	1.9
18歳～39歳女性	119	81.5	50.4	36.1	23.5	18.5	28.6	26.9	1.7	3.4	0.8
40歳～64歳女性	182	85.2	52.7	23.1	36.3	13.7	31.3	12.1	2.2	4.9	0.0
65歳～74歳女性	128	83.6	56.3	24.2	45.3	21.1	38.3	15.6	0.8	3.9	2.3
75歳以上女性	99	80.8	67.7	20.2	40.4	21.2	27.3	16.2	2.0	2.0	4.0

(5) 日常生活での地域の人との関係

日常生活での地域の人との関係では、助けてもらっていたり、助けてもらいたいと思うことが「いずれもない」が全ての項目で半数以上を占めている。

「近い将来、助けてもらうかもしれない」も含めると、地域からの支援の必要性でもっとも多かったのは「災害時の手助け」であった。次いで「安否確認の声かけや見守り」「話し相手や相談相手」「外出や通院の付き添いや送迎」「ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り」など高齢者への支援の項目で多くなる傾向があり、「子育て家庭の家事支援」「一時的なこどもの預かり」などこどもに関わる支援の項目では少なかった。

日頃の生活で、地域の人に助けてもらっていること(n=1,006)



■現在、助けてもらっている □できれば、助けてもらいたいと思う ■近い将来、助けてもらうかもしれない □いずれもない ■無回答

(6) 地域の助け合い

【手助けができるか】

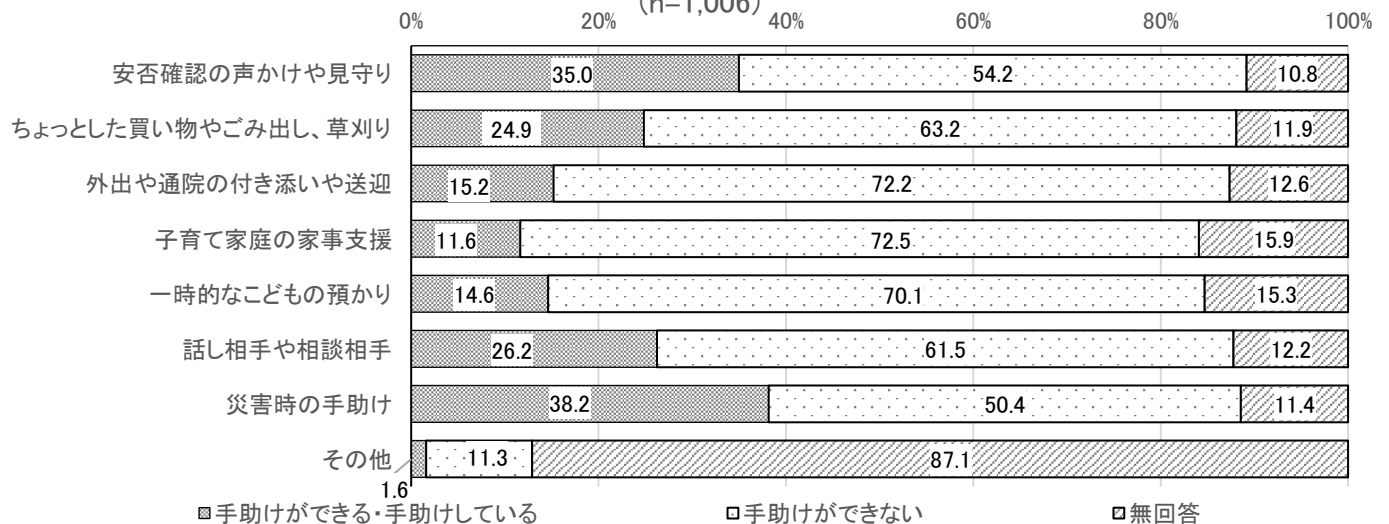
いずれの項目も「手助け出来ない」の割合がもっとも多く、半数以上を占めている。

「手助けができる・手助けをしている」割合は、「災害時の手助け」(38.2%)、「安否確認の声かけや見守り」(35.0%)が3割以上で、「話し相手や相談相手」(26.2%)、「ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り」(24.9%)が2割台である。「外出や通院の付き添いや送迎」「子育て家庭の家事支援」「一時的なこどもの預かり」は1割台である。

性・年齢層別にみると、40歳～64歳では男女ともに「災害時の手助け」がもっとも多く、65歳～74歳では男女ともに「安否確認の声かけや見守り」が多い。75歳以上の男性では「安否確認の声かけや見守り」がもっとも多く、75歳以上の女性では「話し相手や相談相手」の割合がもっとも多くなっている。

地域の人困っていた場合、手助けができるか

(n=1,006)



性年齢層別「地域の人困っていた場合、手助けができるか」(複数回答)

性別・年齢層	合計	手助けができる・手助けしている							
		安否確認の声かけや見守り	ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り	外出や通院の付き添いや送迎	子育て家庭の家事支援	一時的なこどもの預かり	話し相手や相談相手	災害時の手助け	その他
全体	1,006	35.0	24.9	15.2	11.6	14.6	26.2	38.2	1.6
18歳～39歳男性	86	30.2	20.9	10.5	9.3	14.0	23.3	46.5	2.3
40歳～64歳男性	162	43.2	30.2	20.4	13.6	17.9	29.0	50.6	3.1
65歳～74歳男性	119	37.8	26.9	16.8	8.4	8.4	21.0	33.6	1.7
75歳以上男性	106	28.3	24.5	13.2	4.7	7.5	17.9	25.5	0.0
18歳～39歳女性	119	35.3	20.2	13.4	14.3	24.4	28.6	47.9	2.5
40歳～64歳女性	182	42.3	30.8	19.2	18.1	23.6	32.4	50.0	0.5
65歳～74歳女性	128	39.8	31.3	16.4	14.8	11.7	38.3	32.8	1.6
75歳以上女性	99	10.1	5.1	5.1	3.0	1.0	11.1	5.1	1.0

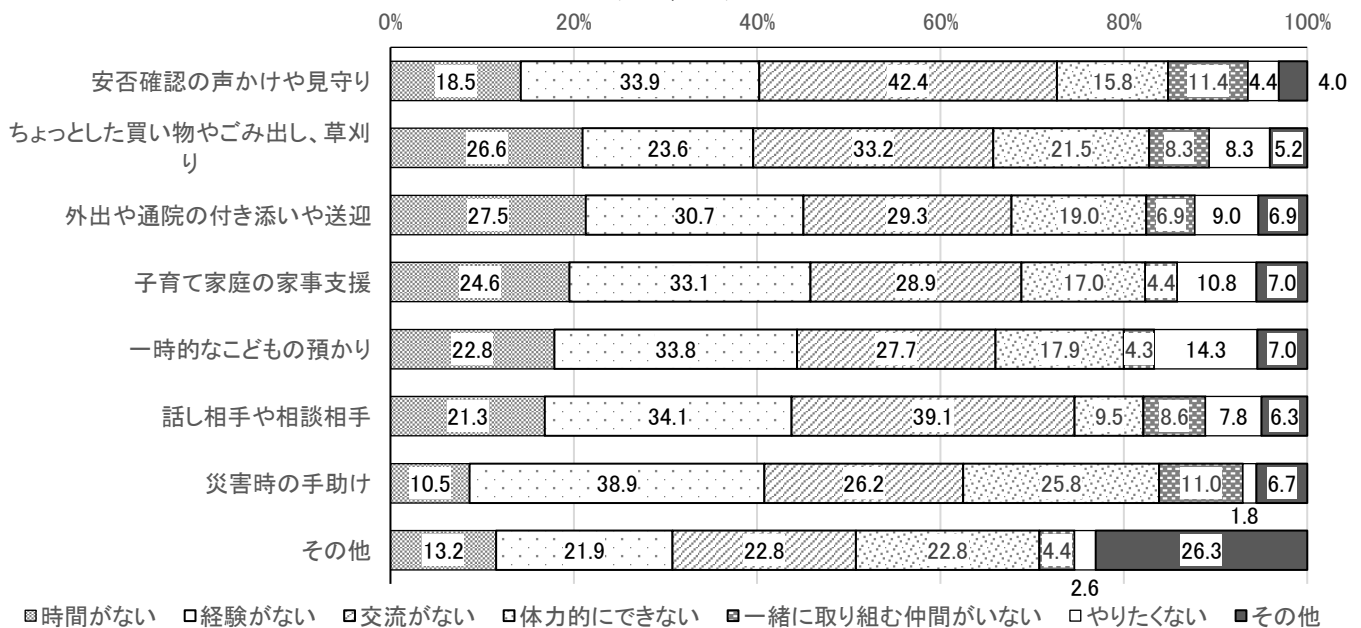
【手助けができない理由】

「手助けができない理由」としては、いずれの項目においても「経験がない」「交流がない」が多く挙げられ、次いで「時間がない」「体力的にできない」の順である。

性・年齢層別に「災害時の手助け」で「手助けができない理由」をみると、男性では、18歳～64歳では「交流がない」、65歳～74歳では「経験が無い」、75歳以上では「体力的にできない」がもっとも多い理由となっている。女性では、18歳～64歳では「経験がない」、65歳以上では「体力的にできない」がもっとも多い理由となっている。

地域の人が困っていた場合、手助けができるか

(n=1,006)



性年齢層別「災害時の手助け」の「手助けができない理由」(複数回答)

性別・年齢層	合計	15-2-⑦ 災害時の手助け						
		時間がない	経験がない	交流がない	体力的にできない	一緒に取り組む仲間がない	やりたくない	その他
全体	507	10.5	38.9	26.2	25.8	11.0	1.8	6.7
18歳～39歳男性	46	10.9	34.8	47.8	4.3	10.9	4.3	4.3
40歳～64歳男性	77	22.1	37.7	39.0	7.8	14.3	1.3	9.1
65歳～74歳男性	63	4.8	41.3	30.2	20.6	14.3	1.6	6.3
75歳以上男性	49	0.0	30.6	12.2	55.1	10.2	2.0	6.1
18歳～39歳女性	58	12.1	63.8	37.9	1.7	13.8	3.4	5.2
40歳～64歳女性	85	18.8	48.2	28.2	11.8	10.6	1.2	3.5
65歳～74歳女性	70	7.1	30.0	12.9	38.6	10.0	1.4	11.4
75歳以上女性	56	0.0	19.6	1.8	76.8	1.8	0.0	7.1

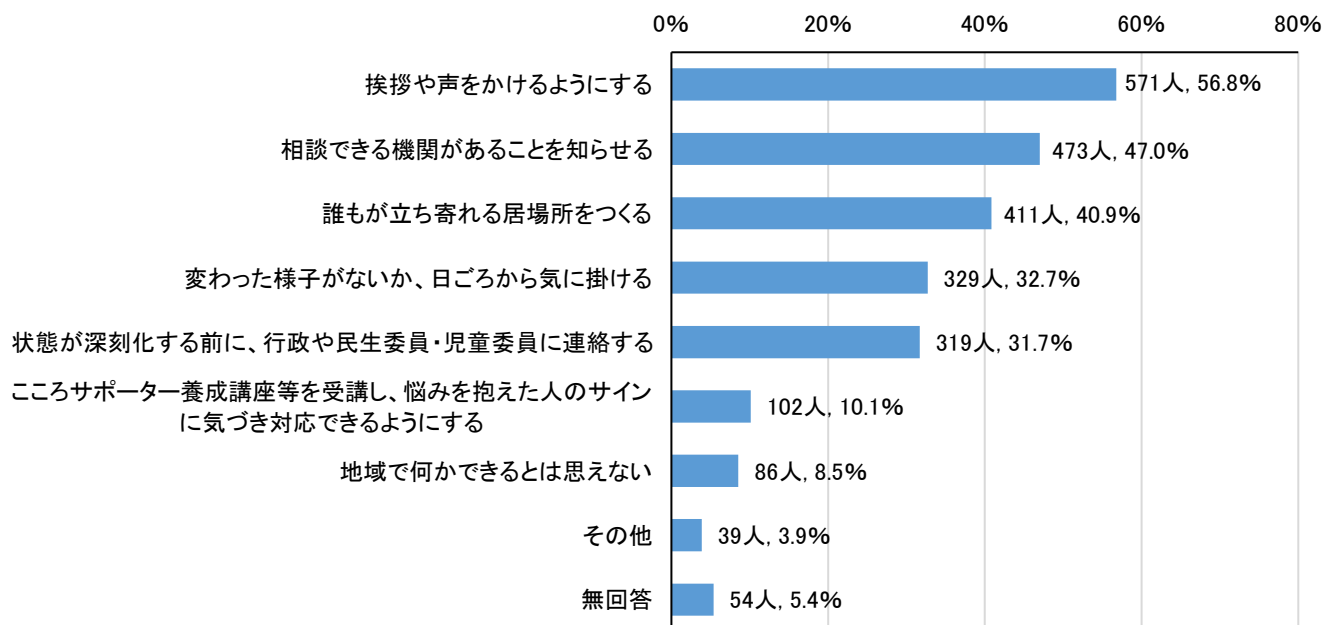
(7) 社会的孤立や引きこもりに地域としてできること

地域としてできることとしては、「挨拶や声をかけるようにする」(56.8%)がもっとも多く、次いで「相談できる機関があることを知らせる」(47.0%)、「誰もが立ち寄れる居場所をつくる」(40.9%)が4割以上である。「変わった様子がないか、日ごろから気に掛ける」(32.7%)、「状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する」(31.7%)が3割台となっている。

性・年齢層別では、18歳～39歳の男性・女性、40歳～64歳の女性で「相談できる機関があることを知らせる」がもっとも多く、それ以外の年齢層では「挨拶や声をかけるようにする」がもっとも多くなっている。

社会的孤立や引きこもりに地域としてできること

(複数回答 n=1,006人)



性年齢層別「社会的孤立や引きこもりに地域としてできること」(複数回答)

性別・年齢層	合計	16 社会的孤立や引きこもりに地域としてできること								
		誰もが立ち寄れる居場所をつくる	挨拶や声をかけるようにする	相談できる機関があることを知らせる	変わった様子がないか、日ごろから気に掛ける	状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する	こころサポーター養成講座等を受講し、悩みを抱えた人のサインに気づき対応できるようにする	地域で何かできるとは思えない	その他	無回答
全体	1006	40.9	56.8	47.0	32.7	31.7	10.1	8.5	3.9	5.4
18歳～39歳男性	86	41.9	45.3	48.8	27.9	22.1	15.1	18.6	7.0	5.8
40歳～64歳男性	162	41.4	55.6	51.2	29.6	35.2	14.8	8.0	4.3	1.2
65歳～74歳男性	119	36.1	68.9	35.3	31.1	31.1	4.2	7.6	5.0	5.0
75歳以上男性	106	46.2	60.4	34.0	34.9	30.2	6.6	3.8	1.9	13.2
18歳～39歳女性	119	40.3	55.5	56.3	30.3	22.7	10.9	11.8	3.4	0.8
40歳～64歳女性	182	40.1	51.1	59.9	36.8	37.4	10.4	6.6	3.3	2.2
65歳～74歳女性	128	44.5	57.8	48.4	33.6	37.5	10.9	4.7	3.9	6.3
75歳以上女性	99	38.4	60.6	30.3	35.4	31.3	7.1	12.1	2.0	13.1

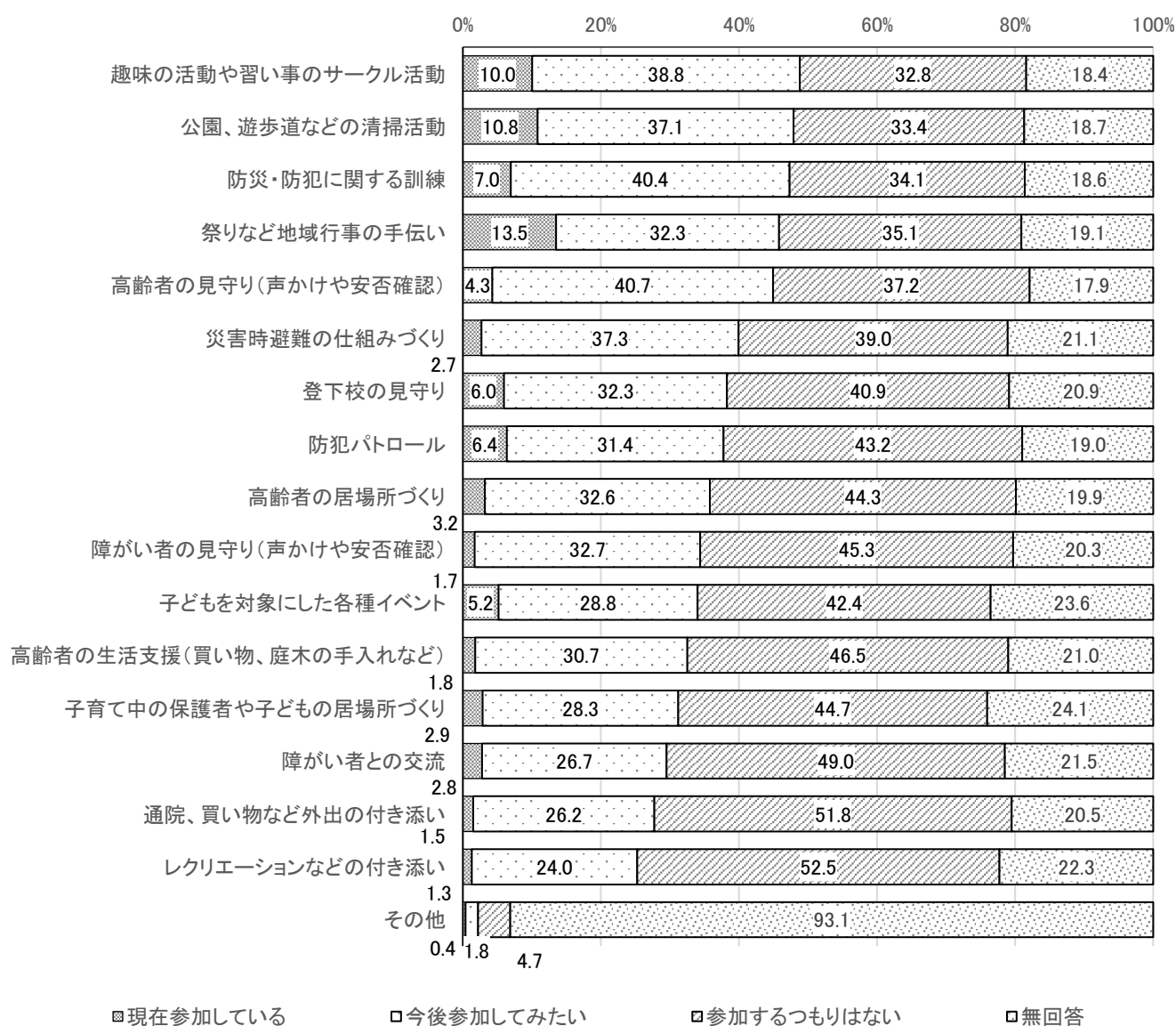
4 地域での活動

(1) 地域の活動への参加について

「現在参加している」「今後参加してみたい」を合わせた割合の上位3項目は、「趣味の活動や習い事のサークル活動」「公園、遊歩道などの清掃活動」「防災・防犯に関する訓練」であり、全体の概ね半数に参加意向がみられる。これに対して「通院、買い物など外出の付き添い」「レクリエーションなどの付き添い」については、全体の半数以上が「参加するつもりはない」としている。

「参加するつもりはない」割合の高い地域の活動は、対象が限定される活動である傾向が見てとれる。

地域の活動への参加について
(n=1,006)

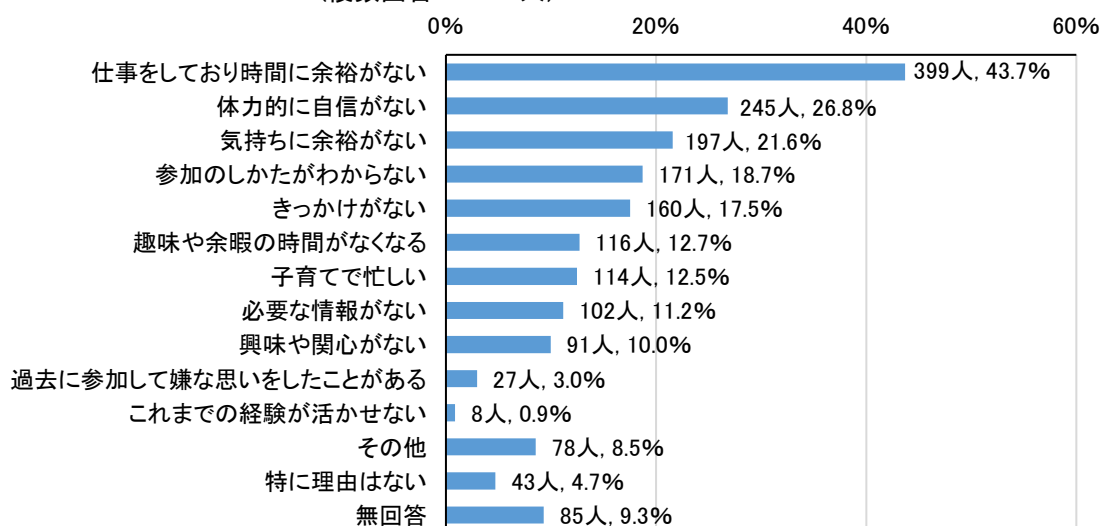


(2) 現在地域活動に参加していない、または参加しない理由

現在地域活動に参加していない、または参加しない理由としては、「仕事をしており時間に余裕がない」(43.7%) がもっとも多かった。次いで「体力的に自信がない」(26.8%)、「気持ちに余裕がない」(21.6%)の順である。これらはいずれも自らの意思として参加しない理由であるが、「参加の仕方がわからない」(18.7%)、「きっかけがない」(17.5%)、「必要な情報がない」(11.2%)の理由は、参加の仕方が分かれば、きっかけがあれば、必要な情報があれば「参加できるかもしれない」人と考えることができる。現在参加していない人の中には2割程度このような人たち(潜在的参加意向)がいると考えられる。

性・年齢層別にみると、「参加できるかもしれない」人(潜在的参加意向)は男女ともに18歳～39歳に多い。

地域活動に参加していない、または参加しない理由
(複数回答 n=913人)



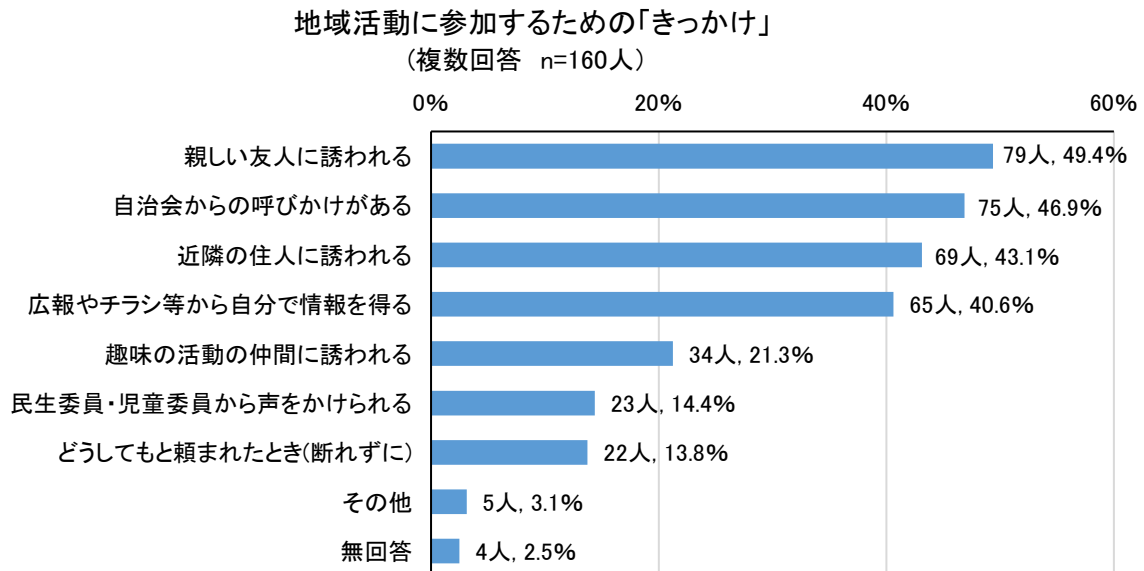
性年齢層別「地域活動に参加していない、または参加しない理由」(複数回答)

性別・年齢層	合計	現在地域活動に参加していない、または参加しない理由(抜粋)										
		仕事をしており時間に余裕がない	子育てで忙しい	趣味や余暇の時間がなくなる	気持ちに余裕がない	体力的に自信がない	きっかけがない	参加の仕方がわからない	必要な情報がない	これまでの経験が活かせない	興味や関心がない	
全体	913	43.7	12.5	12.7	21.6	26.8	17.5	18.7	11.2	0.9	10.0	
18歳～39歳男性	82	59.8	20.7	26.8	26.8	11.0	28.0	30.5	17.1	1.2	15.9	
40歳～64歳男性	155	76.8	11.0	13.5	21.3	13.5	13.5	18.7	10.3	0.6	11.0	
65歳～74歳男性	107	25.2	0.0	16.8	16.8	30.8	17.8	18.7	8.4	0.0	10.3	
75歳以上男性	87	9.2	0.0	0.0	11.5	41.4	6.9	11.5	10.3	3.4	8.0	
18歳～39歳女性	118	53.4	39.0	19.5	27.1	11.0	32.2	29.7	19.5	0.0	15.3	
40歳～64歳女性	175	61.1	17.1	9.1	33.1	24.6	18.3	18.3	9.7	1.7	7.4	
65歳～74歳女性	112	21.4	2.7	11.6	17.0	42.9	9.8	11.6	6.3	0.0	8.0	
75歳以上女性	75	2.7	1.3	4.0	5.3	54.7	13.3	9.3	9.3	0.0	4.0	

(3) 地域活動に参加するための「きっかけ」

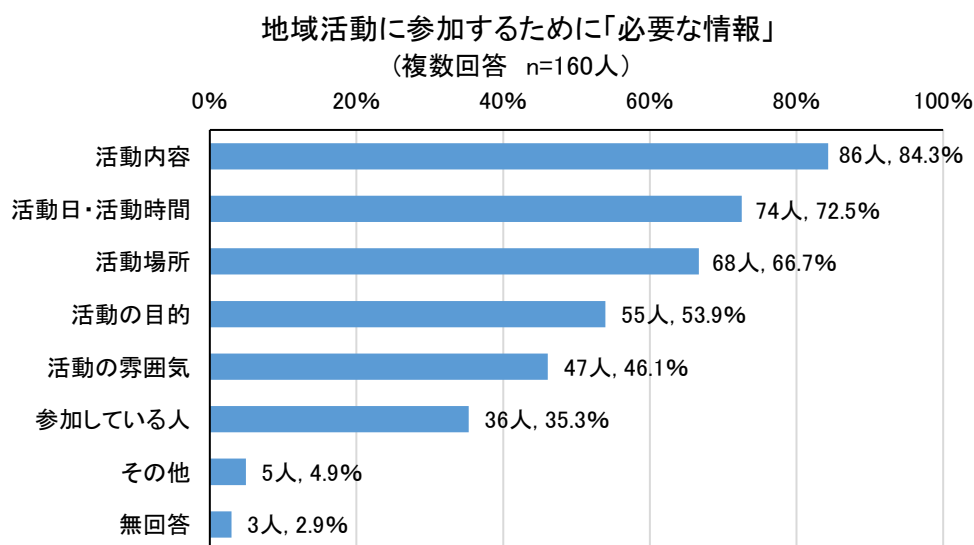
活動に参加するためのきっかけの上位は、「親しい友人に誘われる」(49.4%)、「自治会からの呼びかけがある」(46.9%)。「近隣の住人に誘われる」(43.1%)、「広報やチラシ等から自分で情報を得る」(40.6%)で、4割以上となっている。

上位3項目は、いずれも受動的なきっかけであるが、唯一能動的なきっかけは「広報やチラシなどから自分で情報を得る」である。



(4) 地域活動に参加するために「必要な情報」

地域活動に参加するために「必要な情報」としては、「活動内容」(84.3%)、「活動日・活動時間」(72.5%)、「活動場所」(66.7%)が上位3項目である。「活動の雰囲気」(46.1%)、「参加している人」(35.3%)は上位の項目に比べると少ないが、必要としている人が3割から4割いる。



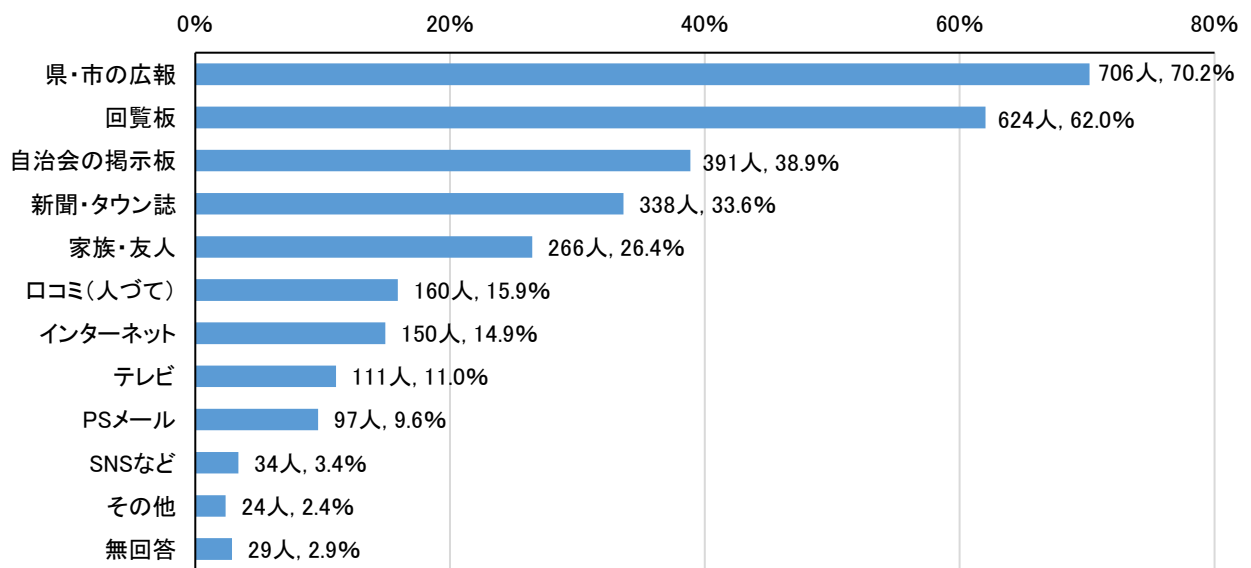
(5) 地域に関する情報の入手方法

地域に関する情報の入手方法では、「県・市の広報」(70.2%)、「回覧板」(62.0%)が上位2項目であり、全体の6割以上が入手方法としている。

性・年齢層別にみると、男女ともに18歳～39歳では「インターネット」の割合が高く、若い世代には「県・市の広報」や「回覧板」以外の情報ツールも有効である可能性がある。

住居形態でみると、建物形態別では、「一戸建て」で「回覧板」がもっとも多く、「共同住宅」では「県・市の広報」がもっとも多くなっている。所有形態別では、「回覧板」は「持ち家」で割合が高く、「借家」では低いという特徴がみられる。

地域に関する情報の入手方法
(複数回答 n=1,006人)



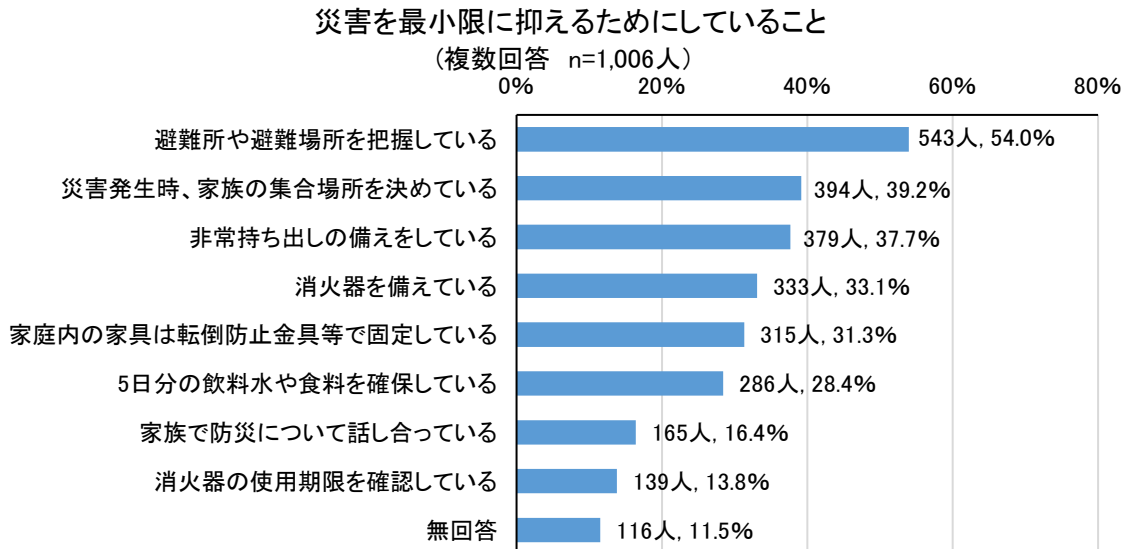
性年齢層、居住形態別「地域に関する情報の入手方法」(複数回答)

	合計	21 地域に関する情報の入手方法											
		県・市の 広報	回覧板	自治会の 掲示板	テレビ	インター ネット	PSメール	新聞・タ ウン誌	家族・友 人	口コミ (人づ て)	SNSなど	その他	無回答
全体	1006	70.2	62.0	38.9	11.0	14.9	9.6	33.6	26.4	15.9	3.4	2.4	2.9
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	54.7	32.6	19.8	9.3	34.9	5.8	18.6	38.4	17.4	8.1	3.5
	40歳～64歳男性	162	67.9	59.9	40.7	6.8	22.8	18.5	28.4	21.0	8.6	4.9	1.2
	65歳～74歳男性	119	72.3	68.1	55.5	15.1	8.4	3.4	37.8	26.9	14.3	0.0	1.7
	75歳以上男性	106	75.5	71.7	45.3	17.0	4.7	3.8	41.5	17.9	9.4	0.9	4.7
	18歳～39歳女性	119	57.1	44.5	34.5	14.3	29.4	15.1	27.7	35.3	18.5	9.2	0.8
	40歳～64歳女性	182	73.6	64.3	30.2	4.9	15.4	16.5	31.9	23.6	19.2	2.7	3.3
	65歳～74歳女性	128	81.3	73.4	43.8	7.8	3.9	3.9	41.4	25.0	21.9	1.6	3.9
	75歳以上女性	99	75.8	75.8	40.4	19.2	0.0	1.0	42.4	31.3	19.2	0.0	5.1
住居建物形態	一戸建て	607	71.5	74.6	40.2	11.4	10.4	8.9	34.3	27.8	16.6	2.5	2.8
	共同住宅	387	68.2	41.9	37.0	9.8	21.7	10.6	32.6	23.8	15.2	4.9	3.1
住居所有形態	持ち家	756	71.8	71.8	42.2	10.4	11.5	9.7	34.7	28.0	16.4	2.2	2.6
	借家	238	65.1	30.3	28.6	11.8	25.2	9.2	30.3	20.6	15.1	7.1	3.8

5 大規模災害時の備え

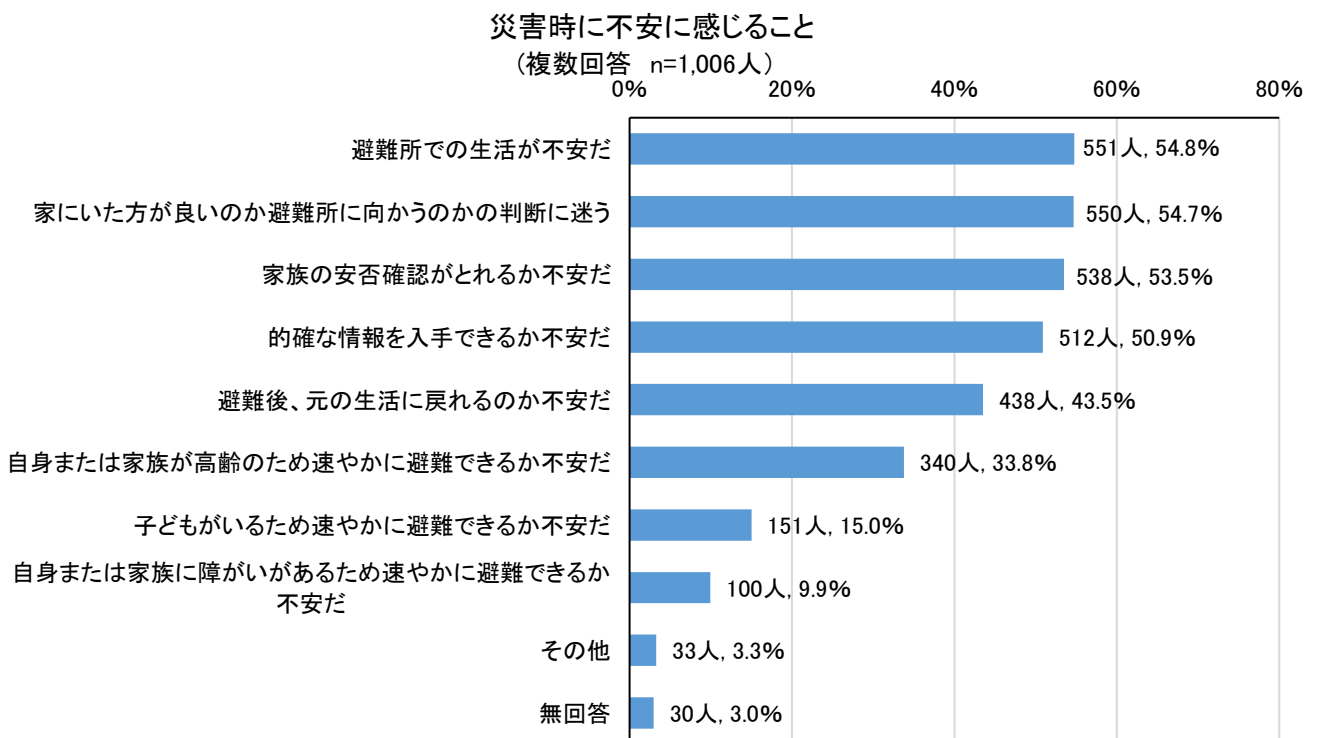
(1) 災害を最小限に抑えるためにしていること

災害を最小限に抑えるためにしていることとしては、「避難所や避難場所を把握している」(54.0%)とする人がもっとも多く、5割を超えている。一方で「家族で防災について話し合っている」「消火器の使用期限を確認している」人は、全体の2割未満であった。



(2) 災害時に不安に感じること

災害時に不安に感じることとしては、「避難所での生活」「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」「家族の安否確認がとれるか」「的確な情報が入手できるか」で全体の半数が不安を感じるとしている。



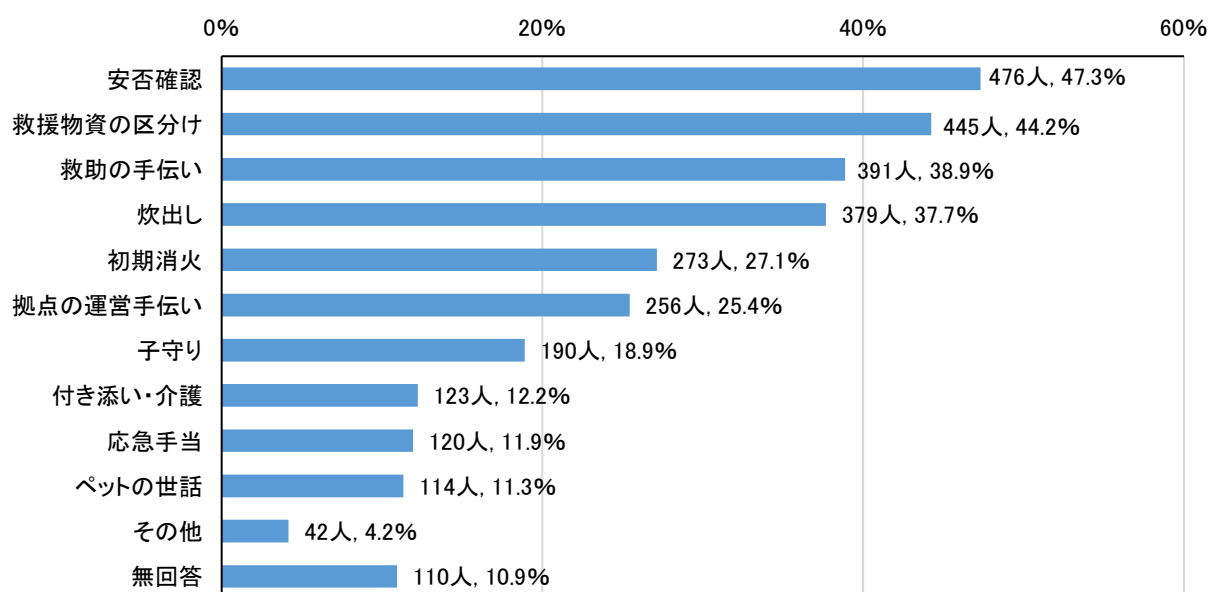
(3) 災害時に地域のためにできること

災害時に地域のためにできることとしては、「安否確認」(47.3%)、「救援物資の区分け」(44.2%)「救助の手伝い」(38.9%)、「炊き出し」(37.7%)が、それぞれ4割程度と多い。

「付き添い・介護」「応急手当」「ペットの世話」といった、専門の知識や技術を要する項目では、全体の1割程度と少なかった。

性・年齢層別にみると、男性では「初期消火」「救助の手伝い」「拠点の運営手伝い」など力仕事の割合が高く、女性では「炊き出し」、「救援物資の仕分け」「子守り」など力仕事以外の割合が高い。

災害時に地域のためにできること
(複数回答 n=1,006人)



性年齢層、居住形態別「災害時に地域のためにできること」(複数回答)

		24 災害時に地域のためにできること												
		合計	安否確認	初期消火	救助の手 伝い	救援物資 の区分け	炊き出し	拠点の運 営手伝い	応急手当	付き添 い・介護	子守り	ペットの 世話	その他	無回答
全体		1006	47.3	27.1	38.9	44.2	37.7	25.4	11.9	12.2	18.9	11.3	4.2	10.9
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	55.8	34.9	55.8	41.9	33.7	32.6	14.0	11.6	22.1	11.6	0.0	7.0
	40歳～64歳男性	162	53.7	48.8	64.8	50.6	34.6	41.4	18.5	10.5	16.7	16.0	2.5	2.5
	65歳～74歳男性	119	44.5	42.9	53.8	42.0	18.5	35.3	8.4	5.9	2.5	5.9	1.7	8.4
	75歳以上男性	106	43.4	29.2	40.6	39.6	14.2	21.7	6.6	3.8	2.8	0.0	8.5	20.8
	18歳～39歳女性	119	58.0	16.0	30.3	42.0	52.1	25.2	17.6	15.1	47.9	18.5	3.4	5.9
	40歳～64歳女性	182	52.2	17.6	33.5	60.4	59.9	24.7	12.1	21.4	32.4	19.2	2.7	3.8
	65歳～74歳女性	128	33.6	14.1	19.5	48.4	49.2	10.2	9.4	12.5	14.1	9.4	6.3	14.8
	75歳以上女性	99	33.3	12.1	8.1	13.1	23.2	8.1	5.1	12.1	4.0	1.0	8.1	34.3

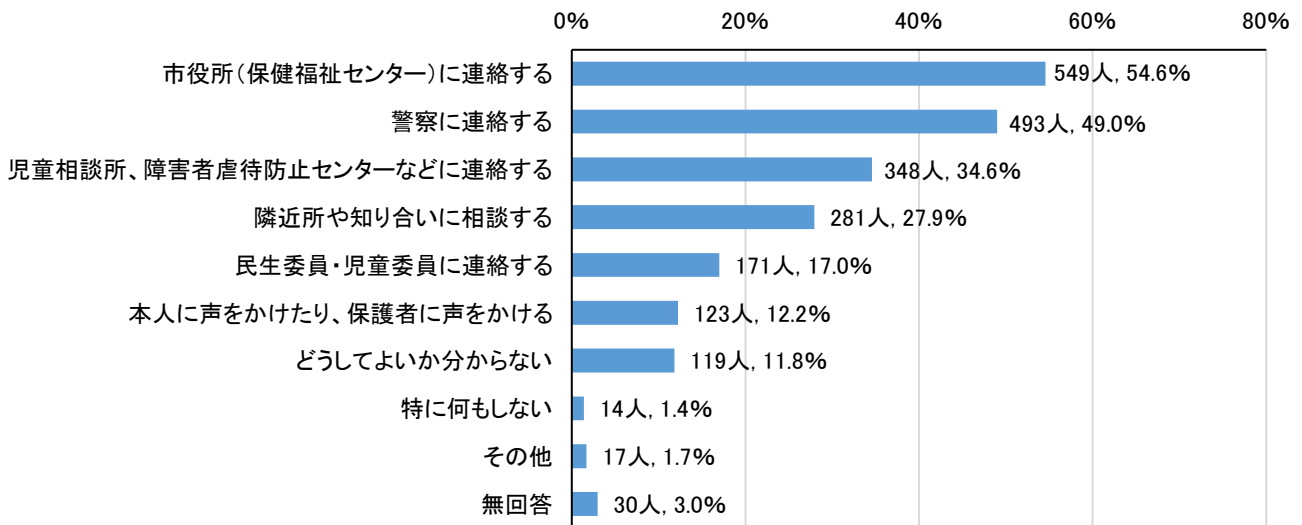
6 権利擁護

(1) 高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、取る対応

「市役所（保健福祉センター）」(54.6%)、「警察」(49.0%)、「児童相談所、障害者虐待防止センターなど」(34.6%)が上位3位で、いずれも行政や専門機関へ連絡する対応であった。一方で、「どうしてよいか分からない」人も1割程度みられる。

性別にみると、女性では「隣近所や知り合いに連絡する」「民生委員・児童委員に連絡する」など、地域の人に連絡する割合が男性に比べ高い傾向である。

高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、取る対応
(複数回答 n=1,006人)



性年齢層、居住形態別「高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、取る対応」(複数回答)

	合計	25 高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、取る対応										
		市役所(保健福祉センター)に連絡する	児童相談所、障害者虐待防止センターなどに連絡する	警察に連絡する	民生委員・児童委員に連絡する	隣近所や知り合いに相談する	本人に声をかけたり、保護者に声をかける	どうしてよいか分からない	特に何もしない	その他	無回答	
全体	1006	54.6	34.6	49.0	17.0	27.9	12.2	11.8	1.4	1.7	3.0	
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	38.4	36.0	58.1	7.0	23.3	12.8	16.3	3.5	0.0	1.2
	40歳～64歳男性	162	61.1	45.7	53.1	10.5	16.7	11.1	11.7	2.5	1.9	0.0
	65歳～74歳男性	119	62.2	26.1	61.3	14.3	26.1	13.4	7.6	0.0	0.0	2.5
	75歳以上男性	106	60.4	27.4	67.0	24.5	19.8	13.2	4.7	0.9	1.9	5.7
	18歳～39歳女性	119	51.3	45.4	38.7	10.9	25.2	16.8	18.5	3.4	4.2	0.0
	40歳～64歳女性	182	57.7	41.8	45.6	14.3	40.7	13.7	11.5	0.0	1.6	0.5
	65歳～74歳女性	128	59.4	30.5	41.4	26.6	30.5	5.5	10.2	0.0	1.6	3.9
	75歳以上女性	99	37.4	14.1	29.3	32.3	38.4	11.1	15.2	2.0	2.0	13.1

(2) 虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に、不安に感じること

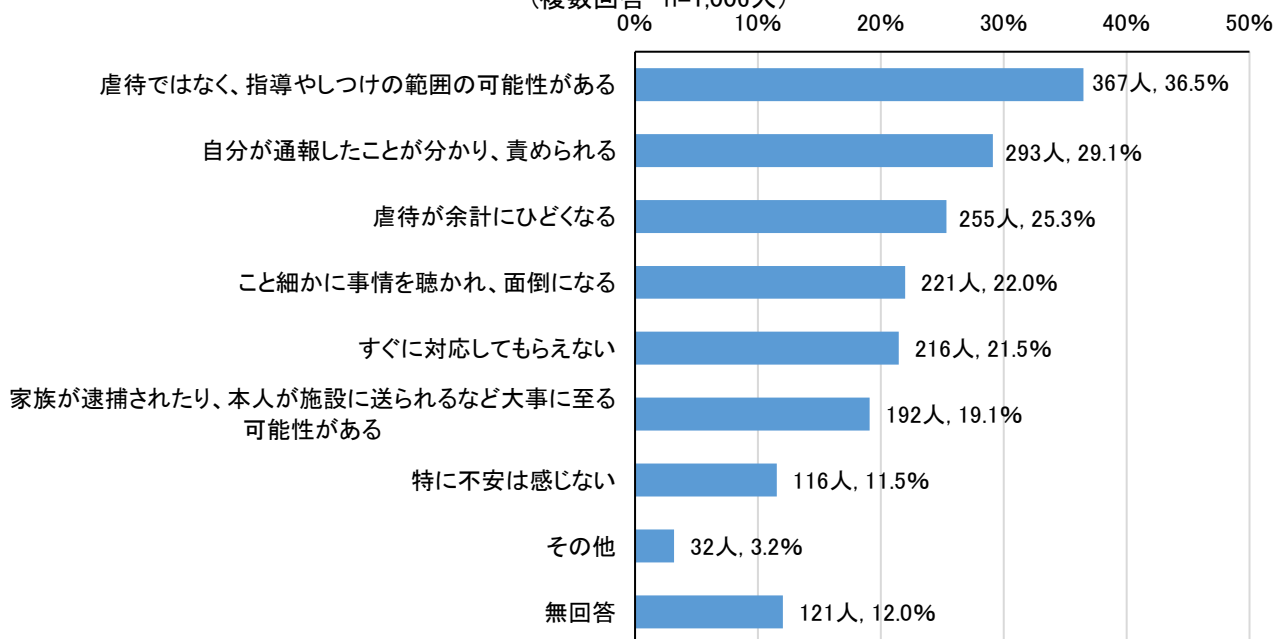
虐待が疑われる場面に気づき対応をとる場合に、不安に感じることでは、「虐待ではなく、指導やしつけの範囲の可能性がある」(36.5%)がもっとも多く、虐待と指導・しつけの境界に対する不安が現れている。次いで、「自分が通報したことが分かり、責められる」(29.1%)、「虐待が余計にひどくなる」(25.3%)が多く、対応した際の通報者の責任に対する懸念が現れている。

一方で、「特に不安を感じない」とした回答も1割程度あった。

性・年齢別にみると、男女ともに18歳～74歳で「虐待ではなく、指導やしつけの範囲の可能性がある」「虐待が余計にひどくなる」ことに不安を感じている割合が高い傾向が見られる。

虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に、不安に感じること

(複数回答 n=1,006人)



性年齢層、居住形態別「虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に、不安に感じること」

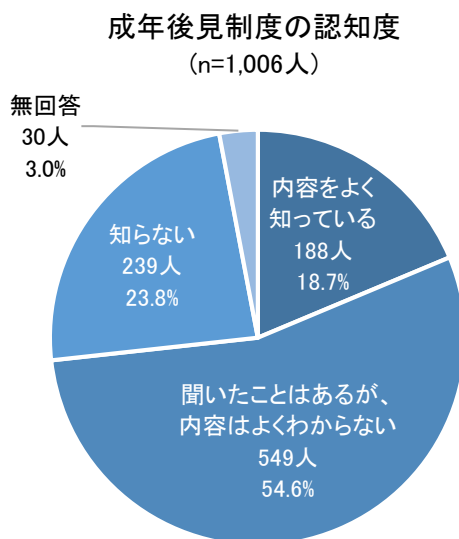
(複数回答)

	合計	26 虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に、不安に感じること									
		家族が逮捕されたり、本人が施設に送られるなど大事に至る可能性がある	こと細かに事情を聴かれ、面倒になる	自分が通報したことが分かり、責められる	すぐに対応してもらえない	虐待ではなく、指導やしつけの範囲の可能性がある	虐待が余計にひどくなる	特に不安を感じない	その他	無回答	
全体	1006	19.1	22.0	29.1	21.5	36.5	25.3	11.5	3.2	12.0	
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	19.8	24.4	34.9	27.9	37.2	44.2	10.5	3.5	2.3
	40歳～64歳男性	162	19.8	24.1	35.8	23.5	48.1	29.0	12.3	1.9	3.7
	65歳～74歳男性	119	15.1	25.2	20.2	19.3	29.4	7.6	16.0	2.5	11.8
	75歳以上男性	106	15.1	17.9	13.2	14.2	14.2	5.7	25.5	6.6	27.4
	18歳～39歳女性	119	22.7	17.6	43.7	26.9	48.7	41.2	5.0	1.7	3.4
	40歳～64歳女性	182	22.0	18.7	37.9	24.7	48.4	39.6	7.7	2.7	2.7
	65歳～74歳女性	128	24.2	24.2	22.7	19.5	34.4	21.1	10.2	2.3	18.0
	75歳以上女性	99	11.1	24.2	14.1	13.1	16.2	6.1	8.1	6.1	37.4

(3) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は73.3%であるが、「内容をよく知っている」人は18.7%と2割に満たず、「知らない」人の方が23.8%と多い。

男女ともに、18歳～39歳で「知らない」の割合が高い。

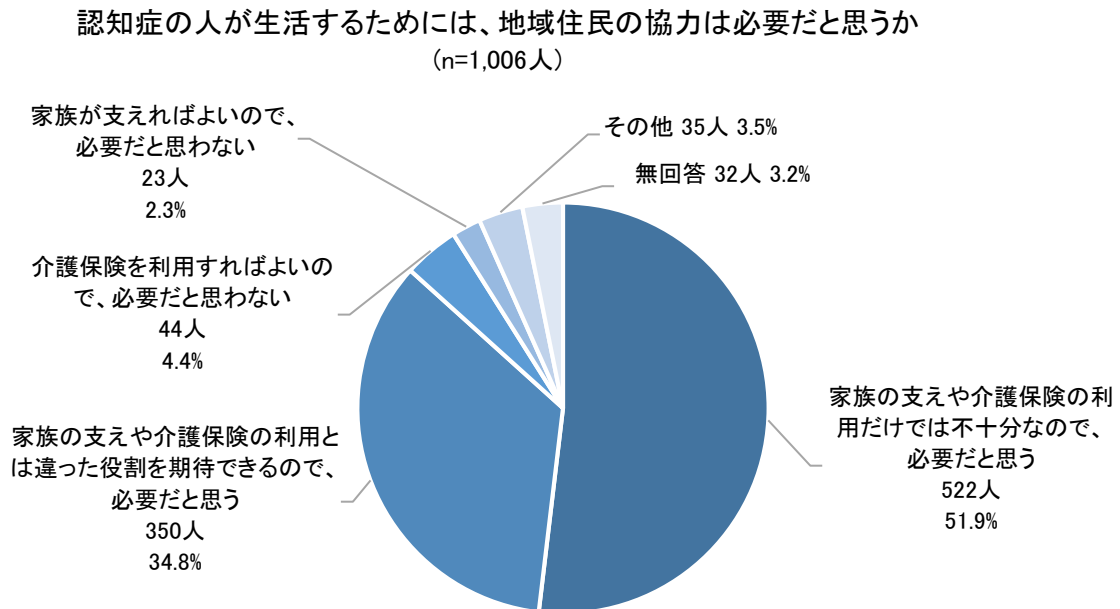


性年齢層、居住形態別「成年後見制度の認知度」

		合計	27 成年後見制度の認知度			
			内容をよく知っている	聞いたことはあるが、内容はよくわからない	知らない	無回答
全体		1006	18.7	54.6	23.8	3.0
性別・年齢層	18歳～39歳男性	86	16.3	39.5	44.2	0.0
	40歳～64歳男性	162	16.7	61.7	21.6	0.0
	65歳～74歳男性	119	21.8	52.9	19.3	5.9
	75歳以上男性	106	21.7	54.7	17.0	6.6
	18歳～39歳女性	119	18.5	40.3	41.2	0.0
	40歳～64歳女性	182	18.7	59.9	20.3	1.1
	65歳～74歳女性	128	27.3	62.5	7.8	2.3
	75歳以上女性	99	7.1	56.6	26.3	10.1

(4) 認知症の人が生活するためには、地域住民の協力は必要だと思うか

地域住民の協力が必要とする回答が、全体の8割を超え、「家族の支え」「介護保険の利用」があれば、地域住民の協力は必要ないとする考えは1割未満であった。

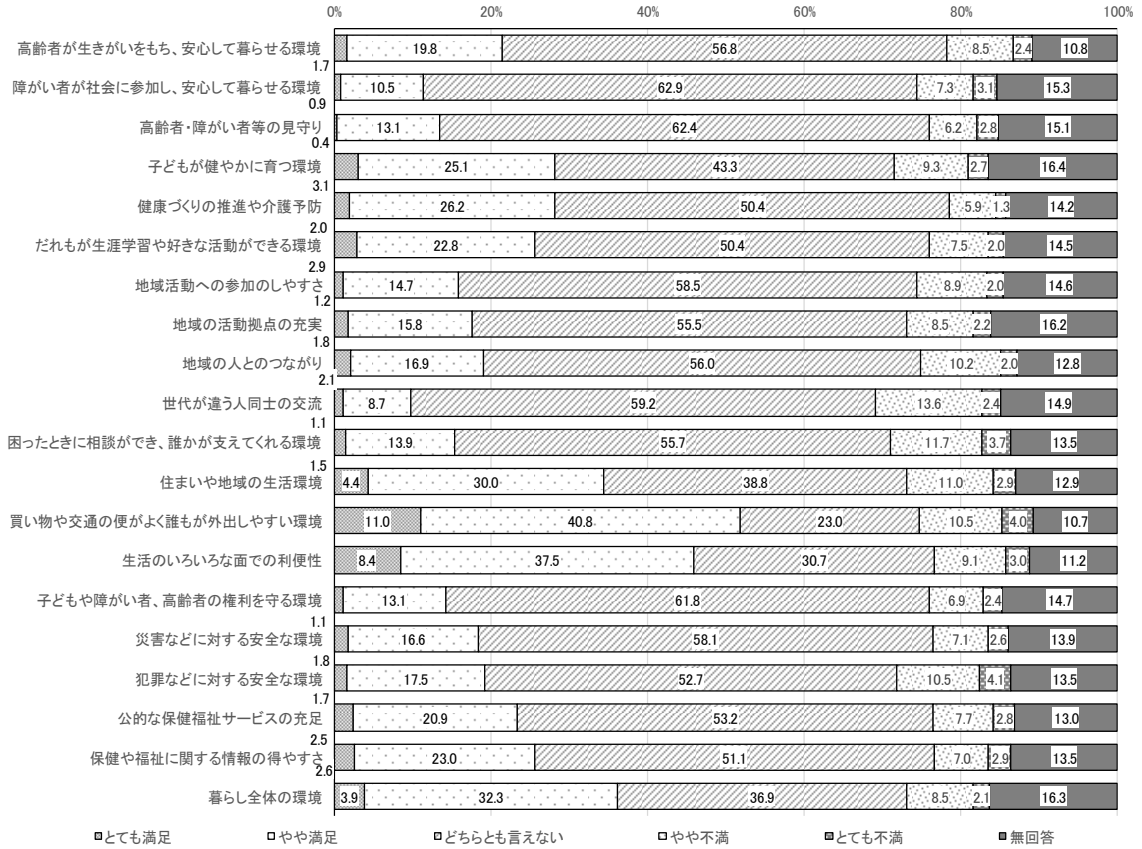


7 地域での暮らしに関する環境

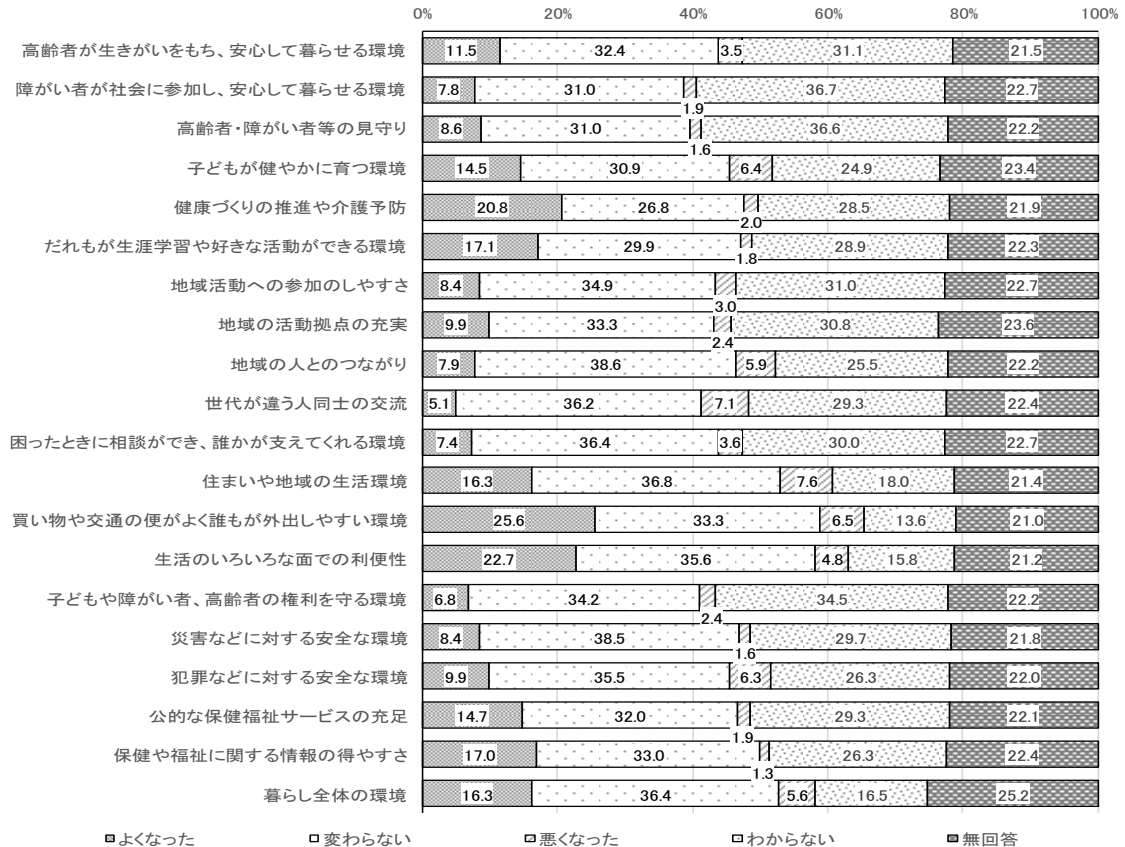
地域での暮らしに関する環境で、満足度の高かった（とても満足+やや満足）上位3項目は、「買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境」「生活のいろいろな面での利便性」「暮らし全体の環境」であった。逆に満足度の下位3項目は、「世代が違う人同士の交流」「障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる環境」「高齢者・障がい者等の見守り」であった。

地域での暮らしに関する環境の以前と比べた変化では、「よくなった」の上位3項目は、「買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境」「生活のいろいろな面での利便性」「健康づくりの推進や介護予防」であった。逆に「悪くなった」の上位3項目は、「世代が違う人同士の交流」「子どもや障がい者、高齢者の権利を守る環境」「困ったときに相談ができ、誰かが支えてくれる環境」であった。

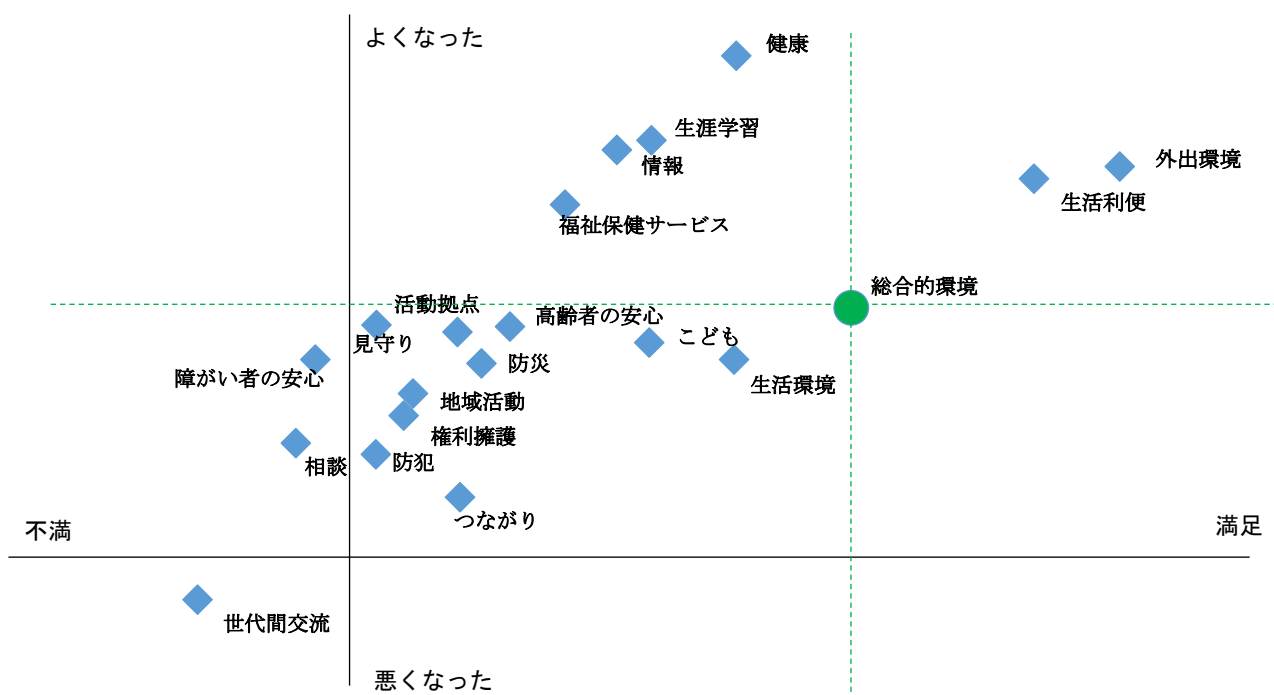
地域での暮らしに関する環境【現在の状況】
(n=1,006)



地域での暮らしに関する環境【以前と比べて変化】
(n=1,006)



【満足度と以前と比べた変化の関係】



「総合的環境」は第1象限に位置し、満足度も比較的高く、以前よりもよくなったと評価されている。

「総合的環境」を基準にみると、満足度も高く、以前と比べてよくなったと評価されているのは「買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境」「生活のいろいろな面での利便性」など利便性に関する項目である。市内を走るコミュニティバスのルート拡大等が高く評価されているものと考えられる。

第1象限に位置し、総合的環境に比べるとやや満足度は低いが、以前と比べてよくなったと評価されている項目は、「健康づくりの推進や介護予防」「だれもが生涯学習や好きな活動ができる環境」「保健や福祉に関する情報の得やすさ」「公的な保健福祉サービスの充足」である。総合計画で健康創造都市を将来像に据えた健康づくりの取組や近年オープンした文化創造拠点シリウス、介護保険サービスの充実などが評価されたものと考えられる。

第1象限に位置しているが、総合的環境に比べると満足度も以前からの変化もやや低い項目として、「高齢者が生きがいをもち、安心して暮らせる環境」「高齢者・障がい者等の見守り」「子どもが健やかに育つ環境」「子どもや障がい者、高齢者の権利を守る環境」など高齢者や子どもに関わる項目、「地域活動への参加のしやすさ」「地域の活動拠点の充実」「地域の人とのつながり」など地域の活動に関わる項目、「災害などに対する安全な環境」「犯罪などに対する安全な環境」など防犯防災に関わる項目が位置している。

第3象限に位置する、不満でかつ以前より悪くなったと評価されたのは、「世代が違う人同士の交流」であり、人的交流にかかわる項目である。

第4象限は、以前よりよくなっているが、満足には至っていないと評価される項目である。

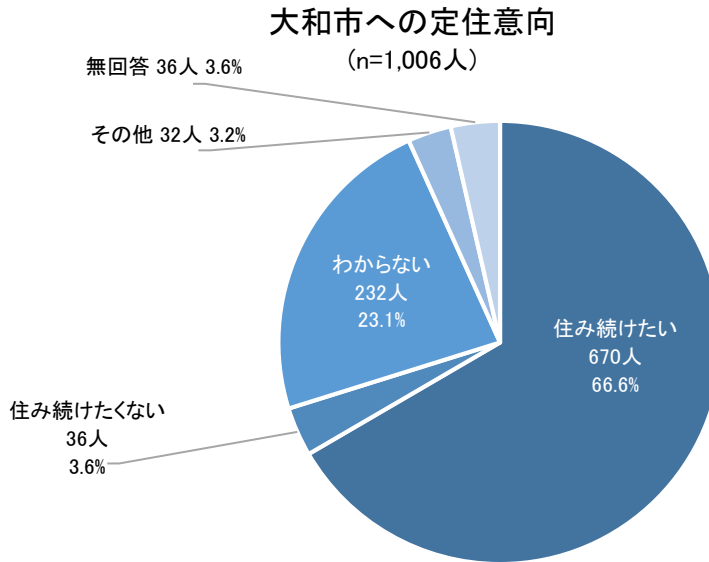
「障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる環境」「困ったときに相談ができ、誰かが支えてくれる環境」など、障がい者施策、相談に関わる項目となっている。

8 定住意向

大和市への定住意向は66.6%である。

性・年齢層別では、65歳～74歳の女性で「住み続けたい」の割合がやや高く、18歳～64歳の「わからない」の割合が高い。

建物居住形態別では、「一戸建て」に比べて「共同住宅」で定住意向が低く、建物所有形態別では、「持ち家」に比べて「借家」の定住意向が低くなっている。

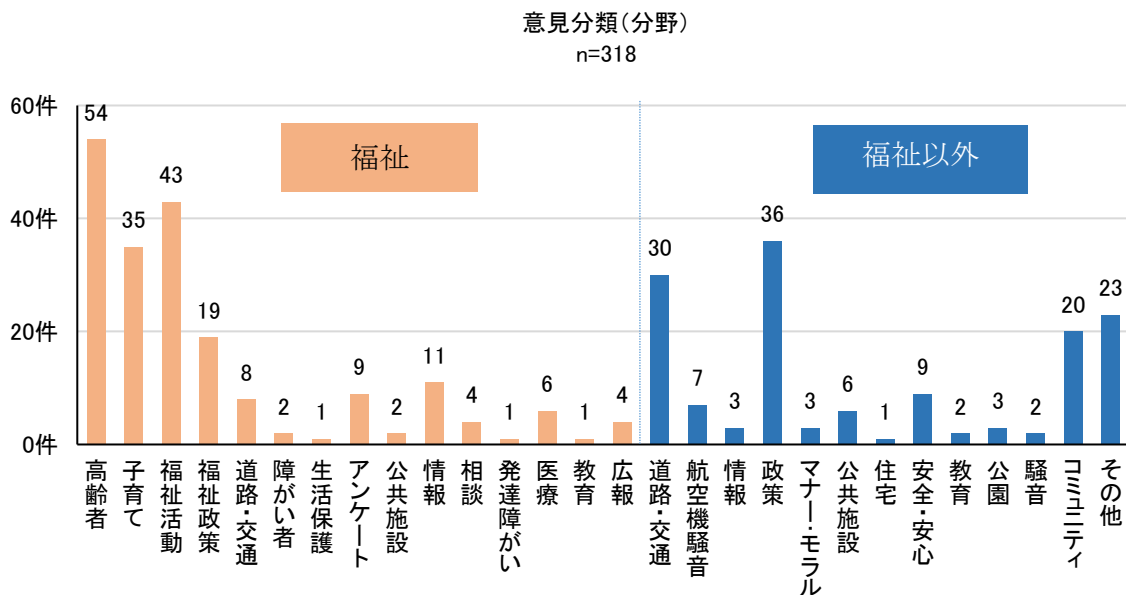


9 大和市の福祉に関する意見等（自由記述）

自由記述による意見は、202名から318件の意見があった。

意見は、要望169件、問題提起75件、提案27件、その他3件に分類された。

意見の分野をみると、福祉分野では、「高齢者」「福祉活動」「子ども」の順に多く、福祉以外では、「政策」、「道路・交通」「コミュニティ」の順となっている。



地域福祉に関する市民アンケート 【調査ご協力のお願い】

市民の皆様におかれましては、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、大和市では、社会環境の変化に伴い多様化・複雑化している福祉ニーズに対応するため、「大和市地域福祉計画」を策定しております。この度は、平成31年度を初年度とする第5期地域福祉計画の改定にあたり、市民の皆様の身近な生活課題や地域での支え合いに関する考えを把握した上で検討を進めてまいりたいと考えており、アンケートを皆様にお願ひすることとなりました。

この調査は、大和市にお住まいの皆様の中から、18歳以上の男女3,000人の方を無作為に抽出し、郵送にてお願いしております。本調査票は無記名でご提出いただくもので、個人が特定されることはございませんので安心してご回答ください。また、いただいた回答は本調査の目的にのみ活用させていただきます。

なお、調査の集計結果につきましては、今後、「大和市ホームページ」等で公表させていただきます。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年1月

大和市長 大木 哲

<ご記入にあたって>

- ① 封筒に記載されているあて名のご本人様にご回答ください。ご本人様による記入が困難な場合は、ご本人様の意思を代理の方がご記入いただいても差し支えありません。
- ② 設問ごとに「○は1つ」や「○はいくつでも」等回答方法を設定させていただいておりますので、その設定に沿った回答をお願いいたします。
- ③ 選択肢「その他」を選択した場合は、()内へその内容を記述してください。
- ④ 回答が困難な場合は無記入のまま次の設問に進んでいただいて構いません。

※ ご記入いただきました調査票は、お名前やご住所を書かずに、同封の返信用封筒に入れて（切手は不要です）、**1月25日（木）まで**にご投函ください。

※ この調査に関するご質問などは、下記までお問合せください。

健康福祉部健康福祉総務課 地域福祉担当 稲木・村木

電話: 046-260-5604/FAX: 046-262-0999

お住まいの地域での助けあいについておたずねします

10. 現在、日頃の生活で困っていることや悩んでいることはありますか(○はいくつでも)

1 自分や家族の健康	2 学校や職場での人間関係	3 近所づきあい
4 子育てや教育	5 生活費等の経済的な悩み	6 その他()
7 特に困っていることはない		

11. 現在もしくは今後、日頃の生活で困ったときや悩んだときに、どこへ相談したいと思いますか(○はいくつでも)

	困ったときの相談先										
	家族・親戚	友人・知人	近所の人	自治会・民生委員	社会的福祉協議会等	警察	市役所・行政機関	病院等専門機関 民間事業者	学校・勤務先	わからない	相談先がない
記入例 ② 家族の健康	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
① 自分や家族の健康	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
② 学校や職場での人間関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
③ 近所づきあい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
④ 子育てや教育	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑤ 心の悩み	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑥ 生活費等の経済的な悩み	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑦ 買い物やごみだし等家事全般	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑧ 外出の付き添いや送迎	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑨ 子どもの見守りや一時預かり	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑩ 地震・災害時の避難や安否確認	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑪ 振込詐欺などの犯罪防止	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
⑫ その他()	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

12. あなたは、地域での助けあいを進めていくことについて、どのように思いますか(○は1つ)

1 市民一人ひとりが、協力できることをする方がよい	4 自己責任なので、特に助けあう必要はない
2 個人では難しいので、地域の団体などが中心になって取り組む方がよい	
3 福祉は行政の仕事なので、行政が行う方がよい	5 わからない
6 その他()	

13. 地域で「顔の見える関係」を築いていくためには何が必要だと思いますか(○はいくつでも)

1 近所でのあいさつ・声かけ	2 近所でのふだんからの付き合い
3 祭りなど行事への参加	4 自治会活動への参加
5 趣味を通じてのグループづくり	6 住民一人ひとりがまちづくりに関心を持つこと
7 若い世代の参加への働きかけ	8 その他()
9 特にない	

14. あなたは、日頃の生活で、地域の人に助けられていることがありますか(①～⑧までそれぞれに○は1つ)

	現在、助けてもらっている	できれば、助けてもらいたいと思う	近い将来、助けてもらうかもしれない	いずれもない
記入例 ② ちょっとした買い物やごみ出し、草刈りなど	1	②	3	4
① 安否確認の声かけや見守り	1	2	3	4
② ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り	1	2	3	4
③ 外出や通院の付き添いや送迎	1	2	3	4
④ 子育て家庭の家事支援	1	2	3	4
⑤ 一時的なこどもの預かり	1	2	3	4
⑥ 話し相手や相談相手	1	2	3	4
⑦ 災害時の手助け	1	2	3	4
⑧ その他()	1	2	3	4

15. 地域の人が困っていた場合、手助けができると思いますか、できない場合、その理由は何ですか
(手助けができない場合 ○はいくつでも)

	手助けができる・手助けしている	手助けができない (○はいくつでも)						
		時間がない	経験がない	交流がない	体力的にできない	一緒に取り組む仲間がない	やりたくない	その他
記入例 ③ 外出や通院の付き添いや送迎	1	2	3	④	5	6	⑦	8
① 安否確認の声かけや見守り	1	2	3	4	5	6	7	8
② ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り	1	2	3	4	5	6	7	8
③ 外出や通院の付き添いや送迎	1	2	3	4	5	6	7	8
④ 子育て家庭の家事支援	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤ 一時的なこどもの預かり	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥ 話し相手や相談相手	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦ 災害時の手助け	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧ その他()	1	2	3	4	5	6	7	8

16. 社会的孤立や引きこもりが社会問題となっていますが、地域としてこれらの問題に対して、どのようなことができると思いますか。(〇はいくつでも)

1 誰もが立ち寄れる居場所をつくる
2 挨拶や声をかけるようにする
3 相談できる機関があることを知らせる
4 変わった様子がないか、日ごろから気に掛ける
5 状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する
6 こころサポーター養成講座等を受講し、悩みを抱えた人のサインに気づき対応できるようにする
7 地域で何かできるとは思えない
8 その他()

地域の活動についておたずねします

17. あなたは地域の活動に参加していますか、今後参加してみたいと思いますか (それぞれに〇はひとつ)

		現在参加 している	今後参加 してみたい	参加する つもりはない
記入例 ③高齢者の生活支援(買い物、庭木の手入れなど)		1	2	3
高齢者 支援	① 高齢者の居場所づくり	1	2	3
	② 高齢者の見守り(声かけや安否確認)	1	2	3
	③ 高齢者の生活支援(買い物、庭木の手入れなど)	1	2	3
	④ 通院、買い物など外出の付き添い	1	2	3
障がい者 支援	⑤ 障がい者との交流	1	2	3
	⑥ 障がい者の見守り(声かけや安否確認)	1	2	3
	⑦ レクリエーションなどの付き添い	1	2	3
子育て 支援	⑧ 子育て中の保護者や子どもの居場所づくり	1	2	3
	⑨ 子どもを対象にした各種イベント	1	2	3
	⑩ 登下校の見守り	1	2	3
防犯 防災	⑪ 防犯パトロール	1	2	3
	⑫ 災害時避難の仕組みづくり	1	2	3
	⑬ 防災・防犯に関する訓練	1	2	3
暮らし	⑭ 公園、遊歩道などの清掃活動	1	2	3
	⑮ 祭りなど地域行事の手伝い	1	2	3
	⑯ 趣味の活動や習い事のサークル活動	1	2	3
その他	⑰(具体的に:)	1	2	3

21へ

18へ

17 で「2 今後参加してみたい」、「3 参加するつもりはない」を選択された方におたずねします

18. 現在地域活動に参加していない、または参加しない理由は何ですか (〇はいくつでも)

1 仕事をしており時間に余裕がない	2 子育てで忙しい	3 趣味や余暇の時間がなくなる
4 気持ちに余裕がない	5 体力的に自信がない	6 きっかけがない→19へ
7 参加のしかたがわからない	8 必要な情報がない→20へ	9 これまでの経験が活かさない
10 興味や関心がない	11 過去に参加して嫌な思いをしたことがある	
12 その他()	13 特に理由はない	

18で「6 きっかけがない」を選択された方におたずねします

19. 地域活動に参加するための「きっかけ」とは具体的にどのようなことだと思いますか（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 親しい友人に誘われる | 2 近隣の住人に誘われる |
| 3 趣味の活動の仲間に誘われる | 4 自治会からの呼びかけがある |
| 5 民生委員・児童委員から声をかけられる | 6 広報やチラシ等から自分で情報を得る |
| 7 どうしても頼まれたとき(断れずに) | 8 その他 () |

18で「8 必要な情報がない」を選択された方におたずねします

20. 地域活動に参加するために「必要な情報」とは具体的にどのようなことだと思いますか（〇はいくつでも）

- | | | |
|------------|-----------|----------|
| 1 活動の目的 | 2 活動内容 | 3 活動場所 |
| 4 活動日・活動時間 | 5 参加している人 | 6 活動の雰囲気 |
| 7 その他() | | |

すべての方におたずねします

21. 地域に関する情報はどのように入手されていますか（〇はいくつでも）

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 県・市の広報 | 2 回覧板 | 3 自治会の掲示板 |
| 4 テレビ | 5 インターネット | 6 PS メール |
| 7 新聞・タウン誌 | 8 家族・友人 | 9 口コミ(人づて) |
| 10 SNS など | 11 その他 () | |

大規模災害時の備えについておたずねします

22. 災害を最小限に抑えるために次のことをしていますか（〇はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 災害発生時、家族の集合場所を決めている | 2 消火器を備えている |
| 3 消火器の使用期限を確認している | 4 非常持ち出しの備えをしている |
| 5 5日分の飲料水や食料を確保している | 6 家庭内の家具は転倒防止金具等で固定している |
| 7 家族で防災について話し合っている | 8 避難所や避難場所を把握している |

23. 災害時に不安に感じることは何ですか（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 自身または家族が高齢のため速やかに避難できるか不安だ | |
| 2 子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ | |
| 3 自身または家族に障がいがあるため速やかに避難できるか不安だ | |
| 4 家族の安否確認がとれるか不安だ | |
| 5 的確な情報を入手できるか不安だ | 6 家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う |
| 7 避難所での生活が不安だ | 8 避難後、元の生活に戻るのか不安だ |
| 9 その他 () | |

24. 災害時に地域のためにできることがありますか (○はいくつでも)

1 安否確認	2 初期消火	3 救助の手伝い	4 救援物資の区分け
5 炊出し	6 拠点の運営手伝い	7 応急手当	8 付き添い・介護
9 子守り	10 ペットの世話	11 その他()	

権利擁護についておたずねします

25. あなたは、高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、どのような対応を取りますか (○はいくつでも)

1 市役所(保健福祉センター)に連絡する	2 児童相談所、障害者虐待防止センターなどに連絡する
3 警察に連絡する	4 民生委員・児童委員に連絡する
5 隣近所や知り合いに相談する	6 本人に声をかけたり、保護者に声をかける
7 どうしてよいか分からない	8 特に何もしない
9 その他()	

26. あなたが、虐待が疑われる場面に気づき、対応をとる場合に、不安に感じることは何ですか (○はいくつでも)

1 家族が逮捕されたり、本人が施設に送られるなど大事に至る可能性がある
2 こと細かに事情を聴かれ、面倒になる
3 自分が通報したことが分かり、責められる
4 すぐに対応してもらえない
5 虐待ではなく、指導やしつけの範囲の可能性もある
6 虐待が余計にひどくなる
7 特に不安は感じない
8 その他()

27. あなたは成年後見制度をご存じですか (○はひとつ)

1 内容をよく知っている	2 聞いたことはあるが、内容はよくわからない	3 知らない
--------------	------------------------	--------

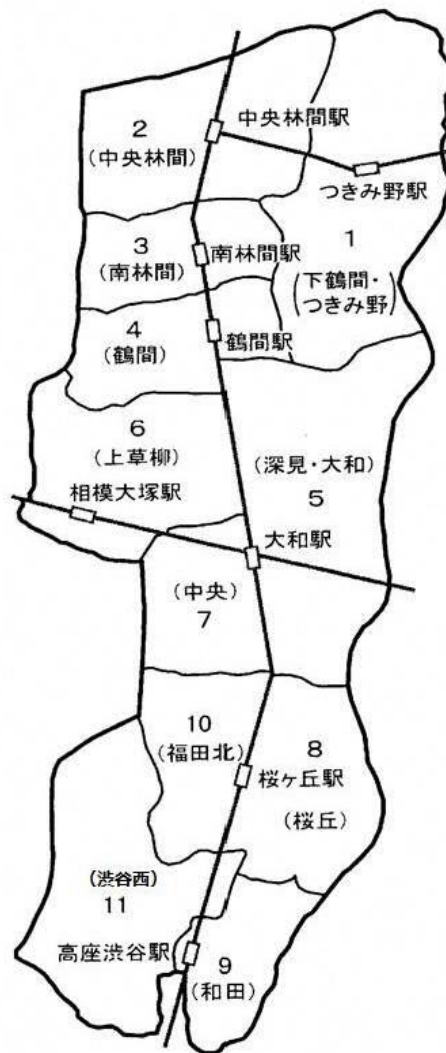
28. あなたは認知症の人が生活するためには、地域住民の協力は必要だと思いますか (○はひとつ)

1 家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う
2 家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う
3 介護保険を利用すればよいので、必要だと思わない
4 家族が支えればよいので、必要だと思わない
5 その他()

31. その他大和市の福祉に関してご意見等がございましたら、お願いします(自由記述)

大和市地区割り図

※この地区割は地区社会福祉協議会の
担当地域で分けたものです。



これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
回答内容をご確認の上、同封の返信用封筒に入れ、**平成30年1月25日(木)まで**に投函してください